

社団法人 兵庫県建築士会

# 女性委員会 活動の記録

平成 15 ~ 20 年度



平成 21 年 3 月

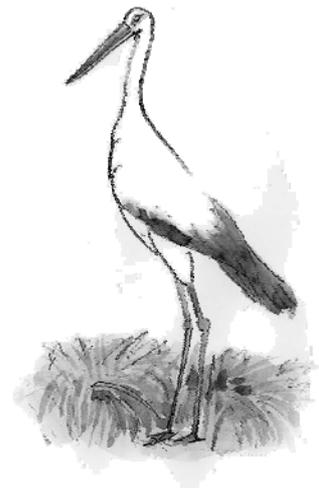
建築士会会員は「たてもの」の一生のさまざまな場面でかかわりを持ち、その専門性を生かしています。私たち女性建築士はかねてから人間にも、自然にも負荷をかけない環境共生の建物づくりの研究をしていました。阪神淡路大震災を経験し、改めてその大切さを実感し、ユーザーに建物のことを分かりやすく伝える役割がある事を再確認いたしました。

これからも、生活者、利用者の視点、ユニバーサルデザインの視点を生かし、ユーザーにわかりやすい言葉で情報提供できる建築技術者になることをめざします。また、専門知識や技術の向上をめざし、女性の枠や建築分野の枠にとどまらず、より幅広い分野の方々との交流をはかります。

(平成16年度 建築関係団体・震災10周年事業メイン大会「宣言文」より)

## 目次

活動の記録発刊にあたって .....	0
1 女性委員会のしくみ .....	1
2 女性委員会のあゆみ .....	2
3 女性部会 主な活動 .....	6
4 研究部会 活動記録 .....	9
[1] ユニバーサルデザイン研究会	
[2] 家族と住まい方研究会	
[3] 木構造木造住宅研究会	
[4] よろず建築文化研究会	
[5] 古建築・近代建築・古材研究会	
[6] 見学研究会	
[7] 検証シリーズ	
5 普及啓発部会 活動記録 .....	33
6 女性委員会 役員名簿 .....	41
編集後記 .....	42



## 活動の記録発刊にあたって

女性委員会委員長 常俊 桂子

兵庫県建築士会女性委員会は、前身である女性部会設立 20 周年を終えた平成 15 年度から、女性会員がより生き活きと自由に活動できるよう組織改革を行い、具体的な役割を担った三部会を発足させ、それを統括する委員会として再スタートしました。

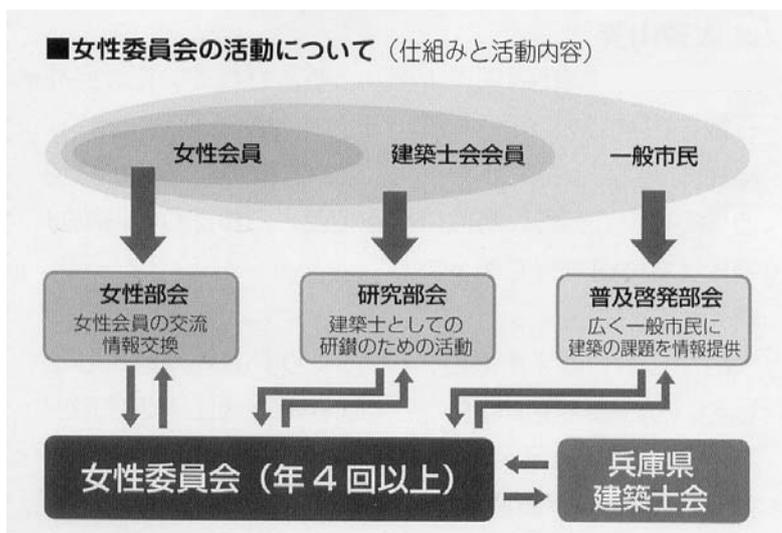
それから6年。女性委員会は、仕事と家事に追われ、更に子育てや老親介護なども加わって公私にわたり多忙な女性会員を中心に、日々の限られた時間をやり繰りして、活発な活動をしてきました。記憶が薄れないうちにそれらの活動をまとめ、皆様に活動内容を共有していただくために、この度、委員会になってからの6年間の「活動の記録」を発刊することにいたしました。一つ一つは小さな活動ですが、それらの積み重ねはかなりの量になり、すべてをご紹介することができなかつたことはお許しください。この冊子を手にとられましたら、どうぞ一通り目を通してください。三部会に分かれ、部会毎に別々のことをしているようで、実はそれぞれ連携・協力し合っている事業が多々あり、外部との連携・外部への発信も増えているのです。

この6年の間には、シックハウス問題や構造計算書偽装事件を契機とする建築基準法や建築士法の大改正、昨年のアメリカを発端とする世界的な金融危機・景気悪化などもあって、建築士を取りまく環境は大きく変化してきました。社会情勢の変化、社会のニーズの変化に伴って、兵庫県建築士会も改革に踏み出そうとしています。女性委員会が担う役割も徐々に変わってくることでしょうが、これからも女性の視点を大切に、幅広い世代・職種の方々との交流の輪を広げつつ、建築士としての資質を磨き、社会に返していけるような活動を目指していきましょう。魅力的で楽しく参加できる活動にしましょう。そして、この活動記録誌の続きのページを、皆様と共に増やしていきましょう。

最後になりましたが、この記録誌発刊につきましては、女性委員会委員をはじめ、各研究会の世話人の皆様方にも多大なご尽力とご協力をいただき、おかげさまで無事発刊することが出来ましたことを、心より感謝申し上げます。

# 1 女性委員会のしくみ

平成15年に女性委員会は組織変更を行い、「女性部会」「研究部会」「普及啓発部会」の3部会制とし、対象も活動の中も広げてスタートしました。委員会は会議を年4回以上開催し、3部会の活動を統括し、相互活動を調整し、全体の予算管理などを行っています。



## 女性部会

兵庫県建築士会に属する女性会員全員が対象です。建築業界ではまだまだマイナーな存在（兵庫県建築士会の中でも女性会員が占める割合は5-6%に過ぎない）である女性会員の交流の場。見学会や懇親会で顔合わせをはかり、近畿や全国の女性建築士との交流もあります。他団体との渉外役としての役割も担っています。

### ●会員交流事業

- ・県内女性会員の交流———ブロック見学会、懇親会（共に年1回開催）
- ・近畿の女性建築士との交流——近畿建築士会協議会女性部会（近建女）、合同研究会（年1回近畿各府県持ち回りで開催）
- ・全国の女性建築士との交流——全国女性建築士連絡協議会（全建女）、分科会などで独自の調査・研究を発信供与する場でもある（年1回開催）

### ●ホームページ 及び “tsudoi メール通信”にて最新の情報提供

## 研究部会

対象は男性も含めた建築士会会員全体。平成14年度以前の20年の活動で高齢者問題・環境共生住宅・シックハウス問題など、時代を先取りしたテーマを取り上げ、生活者としての視点を建築士としての専門分野で活かしてきた姿勢を大切に、複数の研究会を立ち上げ活動しています。

### ●建築士としての研鑽・技術向上のため研究会を開催

現在、ユニバーサルデザイン研究会、家族と住まい方研究会、木構造木造住宅研究会、よろず建築文化研究会、見学研究会、検証シリーズ などが活動中

## 普及啓発部会

対象は一般市民に広がります。研究会活動などで得たことを自分たちだけのものに留めず、広く社会に発信し、同時に建築士の存在や役割をアピールします。神戸市住まいの安心支援センター（すまいるネット）の設立とともに、市民向け普及啓発事業を委託され、毎年セミナーを企画運営しています。

### ●広く一般市民に建築・暮らしなどについて情報提供

建築士と共に考えるセミナーやワークショップを開催

### ●兵庫県建築士会、建築士の存在と役割を社会にアピールする活動

建築士会全国大会の他に、一般市民が集まる各種催し（フォーラムなど）に参加してパネル展示、冊子配布等

## 2 女性委員会のあゆみ(平成 15～20 年度) / 2003 年 4 月～2009 年 3 月

### ■平成 15 年度

<b>委員会</b>	6/7,9/6,12/20,3/27
<b>女性部会</b>	<p>1)ブロック見学会、懇親会 2/7 参加者11名 人と防災未来センター、兵庫県立美術館レストランピラオリエンタルで懇親会</p> <p>2)近畿建築士会協議会女性部会 5/30 幹事会 大阪建築会館 参加者1名 11/24 見学会奈良(松伯美術館、旧佐伯邸、春日大社式年造替現場)参加者5名</p> <p>3)全国女性建築士連絡協議会 7/11-12 兵庫 参加者21名 テーマ「地域と共生する住環境づくり～復興都市から考えるまちとくらしの未来像」 分科会「防災まちづくり」「環境共生」「集まって住む」でコメンテーターとして活動発表 エキスカッション「人と防災未来センター」「神戸市すまいの安心支援センター」 「旧神戸外国人居留地」「北野山本通り伝統的建造物群保存地区」の4コース企画</p> <p>4)全国大会(宮崎) 10/24-25 屋台村「循環する木の住まい」パネル出展 参加者5名</p>
<b>研究部会</b>	<p>1)世話人会 6/3</p> <p>2)研究会の開催(各研究会の活動詳細は別途参照) 6/7 研究会全体で発足の会 「ユニバーサルデザイン研究会」「家族と住まい方研究会」「木構造・木造住宅研究会」 「古建築、近代建築、古材研究会」「検証シリーズ」「見学研究会」</p> <p>3)神戸市ユニバーサルデザイン子供絵画コンテスト審査会に審査委員として参画 10/1</p>
<b>普及啓発部会</b>	<p>1)パネル「循環する木の住まい」展示 5/31(兵庫県建築士会総会),6/21～7/8 (丹波年輪の里),7/11-7/12(兵庫県民会館)、7/14-7/25(伊丹市役所)、 9/4-9/16・9/18-9/30・10/2-10/14(すまいるネット)、10/24(宮崎全国大会)、 11/22-11/30(姫路あいめっせフェスティバル)</p> <p>2)神戸市すまいの安心支援センターのセミナー企画運営 8/31「100年住宅に学ぶ一木造建築長寿の秘密」参加者32名 10/26「住まいの中のユニバーサルデザイン」メリケンパーク展示場にて。参加者14名 2/15「地震に強い家づくり～木造のしくみを知ろう」参加者32名</p> <p>3)住教育実践 7/10神戸市立岩岡小学校5年生「快適なくらし方 夏バージョン」5名</p>

### ■平成 16 年度

<b>委員会</b>	5/1、7/24、10/30、1/29
<b>女性部会</b>	<p>1)ブロック見学会 6/12 参加者21名 兵庫の公共木造建築探訪(山崎町学遊館アイビードーム、神崎町立越知谷第一小学校)</p> <p>2)懇親会&amp;見学会 1/29 参加者21名 新神戸竹友クラブでレクチャー、フロインドリーブ(旧ユニオン教会)見学</p> <p>3)近畿建築士会協議会女性部会 6/1 幹事会 大阪建築会館 参加者1名 11/16 見学会滋賀(住友活機園、石山寺)参加者4名 2/11 京都府建築士会女性部会20周年記念事業 参加1名</p> <p>4)全国女性建築士連絡協議会 7/16-17 東京 参加者5名 テーマ「地域と共生する住環境づくり～美しい ひと・まち・くらし」 分科会「子供・住環境」でコメンテーターとして住教育の取り組み発表</p>

- 5) 全国大会(和歌山)  
10/21-22 クイズ知ってるつもり参画 参加者7名
- 6) 建築関係団体震災10周年事業メイン大会  
2/12県公館 「わかばと共に住みたいまち、住みやすいまちをめざして2005年兵庫」

#### 研究部会

- 1) 世話人会 4/14,12/16
- 2) 研究会の開催(各研究会の活動詳細は別途参照)  
「ユニバーサルデザイン研究会」「家族と住まい方研究会」「木構造・木造住宅研究会」  
「検証シリーズ」
- 3) 神戸国際展示場ユニバーサルデザイン検証(神戸国際観光コンベンション協会の委託) 1/6~1/31

#### 普及啓発部会

- 1) パネル「循環する木の住まい」展示  
5/23ひょうご森の祭典2004(高砂市市の池公園) 参加者7名、10/16~17(デュオ神戸)
- 2) 神戸市すまいの安心支援センターのセミナー企画運営  
9/26 「都会のマンションで国産材を使う」参加者26名  
2/27 神戸市建築文化賞表彰式、記念講演会(神戸市と共催)  
「まちの資産・原風景としての建築を考える」(森まゆみ氏ほか)参加者250名
- 3) 住教育実践 11/16神戸市立楠中学校1年「快適な住まいについて考えよう」4名

## ■平成 17 年度

**委員会** 5/29、7/16、11/26、2/4

#### 女性部会

- 1) ブロック見学会 10/22 参加者9名  
兵庫陶芸美術館、篠山チルドレンズミュージアム
- 2) 懇親会 2/4 北野利宮館 参加者13名
- 3) 近畿建築士会協議会女性部会  
6/22 幹事会 大阪建築会館 参加者2名  
10/30 見学会和歌山(九度山慈尊院・高野口小学校ほか)参加者4名
- 4) 全国女性建築士連絡協議会  
12/2-3 香川 参加者6名  
テーマ「地域と共生する住環境づくり～身近な素材を未来へ継ぐ」  
分科会「子供・住環境」でコメンテーターとして家族と住まい方研究会の取り組み発表
- 5) 全国大会(愛知)  
6/10 屋台村「住教育」パネル出展・クイズ知ってるつもり参画 参加者6名

#### 研究部会

- 1) 世話人会 5/29
- 2) 研究会の開催(各研究会の活動詳細は別途参照)  
「ユニバーサルデザイン研究会」「家族と住まい方研究会」「木構造・木造住宅研究会」  
「検証シリーズ」
- 3) 第3回ユニバーサルデザイン全国大会(神戸国際展示場)に、ユニバーサルデザイン研究会  
作成のパネル出展(兵庫県建築士会新規事業枠活用事業) 8/17~19

#### 普及啓発部会

- 1) パネル「循環する木の住まい」展示 5/3(姫路)12/4(神戸国際会議場森づくりフォーラム)
- 2) 神戸市すまいの安心支援センターのセミナー企画運営  
11/20 「ユニバーサルデザインで変わる住まいと暮らし」参加者34名  
2/12「どうする？子供部屋」参加者20名
- 3) 住教育支援  
1/19パネルディスカッション「防災教育で伝えることまなぶこと」パネリストとして参画  
2/10(財)住宅総合研究所「住まい・まち学習」実践報告に、これまでの実践をまとめた  
論文「生きる力を育てる住教育プログラム」を応募
- 4) 兵庫県「森づくりフォーラム～森と共に生きる」パネリストとして参画 12/4

## ■平成 18 年度

<b>委員会</b>	4/1、6/17、9/30、12/9、3/17
<b>女性部会</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>1) ブロック見学会 5/21 参加者9名 阪神間のモダニズム住宅の魅力を探る(滴翠美術館、ヨドコウ迎賓館) 講師 設楽貞樹氏(安井建築事務所)</li><li>2) 懇親会 2/24 コムシノワ 参加者11名</li><li>3) 近畿建築士会協議会女性部会 6/14 幹事会 大阪建築会館 参加者1名 9/15 見学会京都(宇治黄檗山萬福寺と普茶料理)参加者3名</li><li>4) 全国女性建築士連絡協議会 7/21-7/22 東京 参加者6名 テーマ「地域と共生する住環境づくり～住まいの安全を守る」 公開シンポジウム「住まいの安全を守る」のパネリスト、分科会「住まいの安全」の コメンテーターとして参画</li><li>5) 全国大会(栃木) 10/20-10/21 情報ブース「建築空間におけるユニバーサルデザイン」パネル出展 クイズ知ってるつもり参画 参加者4名</li><li>6) 耐震強度偽装問題に対応するための信頼回復フォーラム 3/24 実行委員会、意見広告ワーキングに参画</li></ol>
<b>研究部会</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>1) 世話人会 4/1 拡大委員会に参加</li><li>2) 研究会の開催(各研究会の活動詳細は別途参照) 「ユニバーサルデザイン研究会」「家族と住まい方研究会」「木構造・木造住宅研究会」 「よろず建築文化研究会」</li><li>3) 防災特別委員会Eーディフェンス実験に参画 5名</li></ol>
<b>普及啓発部会</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>1) パネル「住教育の実践」「建築空間におけるユニバーサルデザイン」展示 4/22(財)住宅総合研究所第7回「住まい・まち学習」実践報告論文発表会(東京建築会館) 6/4ひょうご森の祭典2006(丹波市丹波の森公苑) 参加者5名</li><li>2) 神戸市すまいの安心支援センターのセミナー企画運営 11/19 「みんなで考えよう!ユニバーサルなすまい」参加者14名 3/3 「民家再生・永く住み継ぐ家～神家昭雄の世界」参加者33名</li><li>3) 住教育支援 4/22(財)住宅総合研究所第7回「住まい・まち学習」実践報告論文発表会で発表 「生きる力を育てる住教育プログラム」参加者3名 (兵庫県建築士会新規事業枠活用事業) 6/15、6/22、9/14、9/25、10/5、10/7 神戸市立高羽小学校5年生 ユニバーサルデザイン授業 9/19 住教育モデル事業取り組み検討会 参加者2名</li></ol>

## ■平成 19 年度

<b>委員会</b>	4/28、6/30、9/18、12/4
<b>女性部会</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>1) ブロック見学会 &amp; 龍野支部との交流事業 3/2 参加者24名 たつの市(永富家、聚遠亭、龍野醤油資料館、伏見屋商店、堀家ほか)</li><li>2) 懇親会 1/19 神戸リーズガーデン 参加者19名</li></ol>

- 3)近畿建築士会協議会女性部会  
6/7 幹事会 大阪建築会館 参加者2名  
8/11 大阪府建築士会女性委員会20周年記念 参加3名  
10/20 見学会兵庫(E-ディフェンス、県立三木総合防災公園内屋内テニス場他)  
近畿建築祭の一部として企画運営 参加者12名
- 4)全国女性建築士連絡協議会  
7/13～7/14 青森 参加者2名  
テーマ「地域と共生する住環境づくり～自然とこだまする」
- 5)全国大会(北海道) 9/8 参加者2名

#### 研究部会

- 1)世話人会 5/14
- 2)研究会の開催(各研究会の活動詳細は別途参照)  
「ユニバーサルデザイン研究会」「家族と住まい方研究会」「木構造・木造住宅研究会」  
「よろず建築文化研究会」
- 3)防災特別委員会Eーディフェンス実験に参画

#### 普及啓発部会

- 1)パネル「循環する木の住まい」「住教育の実践」「建築空間におけるユニバーサルデザイン」展示  
6/27～7/3(阪急伊丹駅4階アートギャラリー)、1/25～2/8(伊丹市)  
9/1～2(NHK放送センター NHK防災パーク2007)  
2/23(中播磨県民局UD社会づくりフォーラム)
- 2)神戸市すまいの安心支援センターのセミナー企画運営  
11/17「あかりと光で変わる住まい」参加者17名
- 3)冊子「建築空間におけるユニバーサルデザイン」発行

## ■平成 20 年度

**委員会** 4/11,7/29,11/11,1/10,2/7,3/14

#### 女性部会

- 1)ブロック見学会 9/13 参加者21名  
エコロジー&芸術の郷～朝来を訪ねる(藤本イサム邸、あさご芸術の森美術館ほか)
- 2)懇親会 1/10 レ・グラーズ 参加者17名
- 3)近畿建築士会協議会女性部会  
6/24 幹事会 大阪府建築士会会議室 参加者2名  
11/8 見学会大阪(天満天神繁昌亭、住まいのミュージアム大阪くらしの今昔館) 参加者11名
- 4)全国女性建築士連絡協議会  
7/18-19 東京 参加者9名  
テーマ「地域と共生する住環境づくり～住みかえに学ぶ」
- 5)全国大会(徳島)  
10/25「クイズ知ってるつもり」に参画 参加者3名

#### 研究部会

- 1)世話人会 5/26
- 2)研究会の開催(各研究会の活動詳細は別途参照)  
「ユニバーサルデザイン研究会」「家族と住まい方研究会」「木構造・木造住宅研究会」  
「よろず建築文化研究会」「見学研究会」「検証シリーズ」

#### 普及啓発部会

- 1)パネル「建築空間におけるユニバーサルデザイン」展示  
12/10-16(四会合同事業「市民と建築士・建築家が創るまち」建築展 こうべまちづくり会館)
- 2)神戸市すまいの安心支援センターのセミナー企画運営  
11/29「豊かな暮らしをめざして～ペットと共生を考える」参加者17名

### 3 女性部会 主な活動(平成 15～20 年度) / 2003 年 4 月～2009 年 3 月

<b>ブロック活動見学会&amp;懇親会 抜粋</b>	
<p>建築士会女性会員は、県下各支部にて登録されていますが、研究会などの活動は神戸・阪神間に偏りがちです。そこで、兵庫県下各地を訪れ、見学会を兼ねて、通常は参加しにくい地域の女性会員と交流することを目的としています。懇親会は、年に1回、美味しいものをいただきながら、女性会員の交流をはかっています。</p>	
<b>平成15年度 2/7 (神戸市)</b>	<b>平成16年度 6/12 (山崎町・神崎町)</b>
<p>兵庫で開催された全国女性建築士連絡協議会での見学コースを兵庫会員は他の見学コースの世話などで未見学だった為、企画。</p>	<p>兵庫県は、公共建築での県産木材の使用をすすめています。アイビードームの木造立体トラスの大屋根、神崎町ピノキオ館など見学し、県産材の活用を学習しました。</p>
<p>← 兵庫県立美術館内 レストランピラオリエンタルにて懇親会</p>  <p>→ 「人と防災未来センター」見学</p> 	<p>100%地元産木材を使って建てられた神崎町立越知谷第一小学校 ↓</p>  <p>↑ アイビードーム</p> 
<b>平成17年度 10/22 (篠山市)</b>	<b>平成18年度 5/21 (芦屋市)</b>
<p>「兵庫陶芸美術館」と旧多紀中学校の校舎を活用した「篠山チルドレンミュージアム」を見学。懐かしい木造校舎と周辺の里山を利用したエコミュージアムで、童心に帰りました。</p>	<p>芦屋の邸宅を生かしたレストランで、設楽貞樹氏(安井建築設計事務所)から「安井武雄と阪神間モダニズム」についてレクチャーを受け、滴翠美術館、旧山邑邸を見学。モダニズムデザインを味わいました。</p>
 <p>丹波焼の中心地に新設された「兵庫陶芸美術館」にて</p>	<p>↓ ヘルプランにて</p>  <p>↑ 旧山邑邸にて</p> 
<b>平成19年度 3/2 (たつの市)</b>	<b>平成20年度 9/13 (朝来市)</b>
<p>龍野支部との交流事業。龍野らしい料理を味わい、永富家、聚遠亭、龍野醤油資料館、伏見屋書店など、龍野支部の方々の案内でたっぷり見学。</p>	<p>県のエコツーリズムパス制度を利用し、朝来市に。地域の素材を活用し、自然となじんだ建物の魅力と遊び心に魅了されました。</p>
 <p>永富家にて</p>	<p>あさご芸術の森美術館にて ↓</p>  <p>↑ 廃材を再利用して建てられた藤本イサム邸</p> 

## 近畿建築士会協議会女性部会(近建女)合同見学会 抜粋

近畿6府県の女性建築士の交流を図るため、各府県女性委員会(部会)が持ち回りで、合同見学会を企画しています。平成19年度は兵庫県が担当で、同じく担当県となっていた近畿建築祭の見学コースの一つとして企画しました。

**平成15年度 11/24 (奈良)**

式年造替工事中の春日大社などを見学。



**平成16年度 11/16 (滋賀)**

住友活機園、石山寺などを見学。



**平成17年度 10/30 (和歌山)**

慈尊院、現在も使用されている木造の高野口小学校など見学。



↓ 高野口小学校玄関にて

↑ 高野口駅前葛城館にて

**平成18年度 9/15 (京都)**

宇治黄檗山萬福寺を見学し、普茶料理を堪能。



**平成19年度 10/20 (兵庫)**

近畿建築祭の会場「北野工房のまち」から、バスで三木市にある「県立三木総合防災公園」へ案内。街、農村風景、最新技術・・・と兵庫県のもつ幅広い分野を見て頂きました。



↑ E-ディフェンスにて



**平成20年度 9/13 (大阪)**

天満天神繁盛亭では、落語を堪能しました。



← 天満天神繁昌亭にて

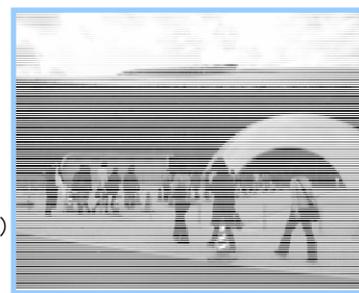
住まいのミュージアム

大阪くらしの今昔館 →

が伊さんに説明を受けながら「なにわ町家の歳時記」見学

← ビデオをみながら  
説明を聞き、  
実験済の建物を見学

ビーンストーム見学 →  
(国内最大級の屋内テニスコート)  
緊急・災害時の活動拠点



## 全国女性建築士連絡協議会(全建女) 抜粋

全国の女性建築士が年1回一堂に会し、活動報告や情報交換を行うもの。東京と全国各地と交代で開催されます。震災で一旦は計画を断念した兵庫県でしたが、平成15年に「復興」をテーマに開催することができました。その後も、分科会でのコメンテーター、パネルディスカッションへの参画など積極的に参加しています。

### 平成15年度 7/11-12 (兵庫)

井戸知事から来賓挨拶を頂き、1日目は「復興都市から考えるまちとくらしの未来像」のテーマで、講演とパネルディスカッション。懇親会には、清原柱子兵庫県理事も出席頂き、女性建築士の活動に対しエールを頂きました。2日目は、8つの分科会があり、兵庫県メンバーは、「防災まちづくり」「環境共生」「集まって住む」の3分科会でコメンテーターをつとめたほか、他分科会でも積極的に交流しました。午後は、人と防災未来センターなど4つの見学コースを企画し、180名を案内しました。



### 平成16年度 7/16-17 (東京)

「美しいひと・まち・くらし」のテーマで、森まゆみさんなどによるパネルディスカッション。「子ども・住環境」の分科会では、普及啓発部会が住教育の活動でコメンテーターを務めました。



### 平成17年度 12/2-3 (香川)

全国大会が愛知万博に合わせ6月開催となった為、この時期に開催。「子ども・住環境」の分科会では、家族と住まい方研究会が調査活動の報告で、コメンテーターを務めました。



### 平成18年度 7/21-22 (東京)

耐震偽装問題に関連し、「住まいの安全を守る」がテーマ。パネルディスカッションではパネリストとして参画し、「住まいの安全」の分科会でもコメンテーターを務めました。

↓ 公開シンポジウム

「住まいの安全」のパネリストとして正木さんが参画

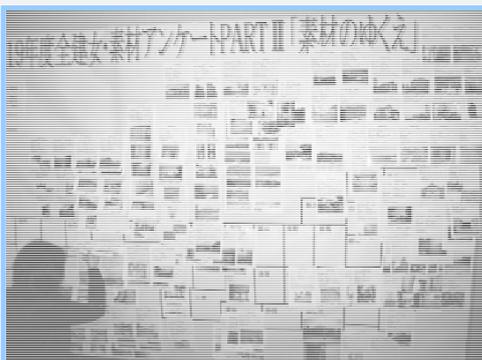


↑ 会場にて



### 平成19年度 7/13-14 (青森)

テーマ「自然とこだまする」  
全都道府県に依頼した「素材アンケート」がまとまりました。



### 平成20年度 7/18-19 (東京)

テーマ「住みかえに学ぶ」  
初めての方もあり、久々ににぎやかに参加してきました。



## 4 研究部会 活動記録

### [1]ユニバーサルデザイン研究会

設立経緯	平成17年夏にユニバーサルデザイン全国大会が神戸市で開催される情報を得、まちづくり・建物づくりの担い手である建築士としてユニバーサルデザイン(UD)の考え方を身につける、仕事に活かす、地域への普及啓発等を目的に、平成15年5月発足。
世話人	常俊桂子(H15～現在)、山本和代(H15)、岩井一枝(H18)
メンバー (通算)	岩井一枝、大西秀樹、岡村英樹、尾瀬くみ、鍵野洋子、城戸史郎、木下巧、木本和子、白川賀津子、鈴木洋子、曾根田香、高田初美、高松範明、田中八重子、垂水百合子、常俊桂子、西原誠助、野崎瑠美、橋本育子、浜谷富美子、原田純子、日高俊二、平内節子、藤木清治、寶谷勝馬、堀切勝美、松岡利香、松原永季、三好努、八木景子、山川兼司、山本和代、横田佳史、吉田一毅、鷲尾真弓(五十音順)

ユニバーサルデザイン研究会活動一覧表(平成15年度～平成20年度)

年度	月日	活動内容(回数記載は定例研究会)	参加人数	
H15	6.28	第1回 オリエンテーション	11	
	7.3	研修会 神戸市職員研修会「UD手法」(講師摂南大学教授田中直人氏)を受講	12	
	7.30	第2回 UD関連書籍の読後討議	11	
	8.23	第3回 「乳幼児」についてのUD事例発表	10	
	9.22	第4回 「子供」についてのUD事例発表	12	
	10.22	第5回 「高齢者」についてのUD事例発表	7	
	10.26	セミナー 一般市民対象すまいるネットセミナー:「すまいるの中のUD」講演及び住宅展示場での高齢者・障害者体験と体験発表会 講師及びサポーターとして協力	7	
	11.25	第6回 「身体障害者」についての資料持ち寄り	4	
	1.17	第7回 「聴覚障害者」についてのUD事例発表	14	
	1.24	見学会 見学研究会と共催で「ビッグアイ(国際障害者交流センター)」「堺市」「エイジレスセンター」(大阪市)見学 案内者摂南大学教授田中直人氏	14	
	2.21	第8回 利用者別マトリクス発表「乳幼児」「子供」	14	
	3.25	第9回 利用者別マトリクス発表「肢体不自由者」	13	
H16	4.10	第10回 車イス常用者を招いての座談会	10	
	5.22	第11回 利用者別マトリクス発表「聴覚障害者」	14	
	6.26	第12回 利用者別マトリクス発表「知的障害者」	10	
	7.24	第13回 利用者別マトリクス発表「視覚障害者」	12	
	8.28	第14回 神戸市立青陽東養護学校見取先生を囲んでの座談会	13	
	9.27	見学会 神戸市立青陽東養護学校見学	15	
	10.2	第15回 養護学校見学の感想発表。「介護保険居宅介護住宅改修」事例紹介	9	
	11.12	第16回 利用者別マトリクス発表「高齢者」	10	
	12.6	検証 JR六甲道～灘区役所周辺UD検証	15	
	12.6	第17回 上記検証について意見交換及び懇親会	14	
	1.6	調査 (財)神戸国際観光コンベンション協会より受託「神戸国際展示場におけるUDの視点に基づいた現状調査」現地調査。以後コアメンバー5名でポイント調査及び報告書作成	12	
	1.20	第18回 利用者別マトリクス発表「妊婦」 JR六甲道～灘区役所周辺UD検証結果担当毎の発表	12	
	1.31	調査 「神戸国際展示場におけるUDの視点に基づいた現状調査」報告書提出	5	
	2.19	第19回 神戸国際展示場現状調査結果概要報告 JR六甲道～灘区役所周辺UD検証第1回まとめ	9	
	3.19	第20回 三宮→国際展示場(ポートアイランド)アクセスのUD検証結果発表 JR六甲道～灘区役所周辺UD検証第2回まとめ	12	
	H17	4.6	検証 「阪急伊丹駅」→「JR伊丹駅」UD検証	5
		4.16	第21回 阪急伊丹駅周辺UD検証結果発表	12
4.20 ～5.21		検証 ハンディキャップ別グループに分かれ「西宮市の大規模商業施設2カ所」「長田区役所」「JR新神戸駅」「阪神岩屋駅・春日野道駅」等をUD検証	15	
5.28		第22回 UD全国大会パネル作成作業(内容についての意見交換)	13	
6.18		第23回 UD全国大会パネル作成作業(原寸大パネル案を準備)	15	
7.16		第24回 UD全国大会パネル作成作業(原寸大パネル修正案を準備)	13	
8.5		第25回 UD全国大会パネル作成作業(原寸大パネル最終確認)	9	
8.17 ～19		パネル 第3回ユニバーサルデザイン全国大会(於神戸国際展示場)に参加、「建築空間におけるユニバーサルデザイン」パネル(A1-8枚)出展	13	
9.24		第26回 UD全国大会の反省・感想 11月セミナーの打合せ	7	
11.5		第27回 マトリクス再点検について意見交換	8	
11～		「ユニバーサル社会づくりひょうご推進会議」企画運営委員会に委員として参画		
11.20		セミナー 一般市民対象すまいるネットセミナー:「UDで変わる住まいと暮らし」講師及びワークショップサポーターとして協力	7	

	12.14	第28回	ルミナリエ会場のUD検証	9
	2.18	第29回	今後の研究会テーマ、どのような活動をしていくかについて意見交換	10
	3.18	第30回	UD研究会活動まとめ(発足～H17末まで)作成に向けて意見交換	12
H18	4.15	第31回	「住み続けることが可能な住宅」のUD攻略法について意見交換	11
	5.27	第32回	同上 UD攻略法について意見交換	12
	6.4	パネル展示	ひよご森の祭典2006(柏原市丹波の森公苑)に「建築空間におけるUD」パネル出展	5
	6.15	UD授業	神戸市都市計画総局からの要請で神戸市立高羽小学校5年生4クラス対象のUD授業「みんなにやさしい高羽小学校にしよう」企画及び授業サポーターとして参加。第1回授業	4
	6.22	UD授業	同上 第2回「みんなにやさしい学校を考えよう」～学校のUD探検～	6
	6.24	第33回	「住み続けることが可能な住宅」UD視点からの目的・定義・手法等の検討	10
	8.5	第34回	同上 部位別にチェックすべきポイントについて意見交換	9
	9.9	第35回	同上 部位別意見交換「アプローチ・玄関」「階段」	9
	9～		「ユニバーサル社会づくりひよご推進会議」普通会员にUD研究会を登録	
	9.14	UD授業	神戸市立高羽小学校UD授業第3回「みんなにやさしい学校にしよう」みんなが使いやすく明るく楽しいトイレづくり、みんながわかりやすいピクトグラムづくりに取り組み、新校舎へのアイデア・提案をみんなで考える。9.25及び10.5も実施	各日 6～8
	10.7	UD授業	同上「みんなにやさしい学校を提案しよう」5年生全員による発表会を保護者と共に参観、感想発表	3
	10.14	第36回	「住み続けることが可能な住宅」部位別意見交換「階段」「寝室」「トイレ」	12
	10.20	パネル 展示	建築士会全国大会(栃木)情報パークに「建築空間におけるユニバーサルデザイン」パネル及び追加作成した説明資料を展示	3
	11.11	第37回	「住み続けることが可能な住宅」部位別意見交換「寝室」	11
	11.19	セミナー	一般市民対象すまいるネットセミナー:「みんなで考えよう!ユニバーサルなすまい」講師及びワークショップサポーターとして協力	5
	1.20	第38回	「住み続けることが可能な住宅」部位別意見交換「寝室」「居間」	12
	2.17	第39回	同上 部位別意見交換「台所」	12
3.24	第40回	同上 部位別意見交換「台所」	11	
3.30		UD研究会活動記録(H15.6～H17.12)CD作成・発行。UD会員に配布		
H19	4.13		従来UD研究会が行ってきた地域社会貢献関連活動分野を、女性委員会外に新たに「UD建築研究会」を発足させて移譲。今後は活動に協力	
	4.13	第41回	「住み続けることが可能な住宅」部位別意見交換「台所」	10
	5.12	第42回	同上 上記のマトリクス化に向けて意見交換	8
	6.9	第43回	同上 マトリクスたたき台をもとに意見交換「つどい」掲載原稿検討(～第46回)	9
	7～12		兵庫県建築士会会報誌「つどい」に半年に渡り「建築空間におけるユニバーサルデザイン」連載。H17作成のUDパネルをベースに改編、説明文を追加	
	7.28	第44回	「住み続けることが可能な住宅」マトリクス部屋別担当者選定	12
	9.8	第45回	同上 部屋別マトリクス意見交換「アプローチ・玄関」「廊下」「階段」	12
	9.13	UD授業	神戸市立高羽小学校5年生4クラスUD授業「高羽小学校UDマップ作り」他～10.18まで4日間参加	11
	10.13	第46回	「住み続けることが可能な住宅」部屋別マトリクス意見交換「個室」	13
	11.10	第47回	同上 部屋別マトリクス意見交換「台所」	7
	11.11	見学会	UD建築研究会と共催で県立西播磨総合リハビリテーションセンター他見学	20
	11.22	UD授業	高羽小学校6年生4クラスUD授業「みんなにやさしい高羽小学校を伝えようUD冊子作り」～12.13まで3日間参加	8
	1.19	第48回	「住み続けることが可能な住宅」手引き書作成計画を検討	9
	2.23	第49回	同上 部屋別マトリクス意見交換「居間・食堂」	12
	2.23	パネル展示	「建築空間におけるUD」パネルを中播磨県民局ユニバーサル社会づくりフォーラムで展示	
	3.8	第50回	「住み続けることが可能な住宅」部屋別マトリクス意見交換「洗面・浴室」「便所」	14
	H20	4.19	第51回	同上 手引き書全体構成について意見交換
5.25		冊子発行	「つどい」連載の「建築空間におけるユニバーサルデザイン」6回分を冊子にして発行。兵庫県内だけでなく建築士会全国大会・全建女・近建女、兵庫県・神戸市の建築関係局、県下各市町福祉のまちづくり担当者の他、一般市民にも配布	
5.31		第52回	「住み続けることが可能な住宅」まとめ作成の今後の進め方について意見交換	11
6.21		第53回	同上 基本条件対象者の確認、全部屋共通項目作成の提案	11
7.26		第54回	同上 部屋別解説文(機能・特徴他)、「農村住宅」「都市住宅」を提示、意見交換	10
9.27		第55回	同上 「農村住宅」「共通事項」について意見交換	11
10.18		第56回	同上	10
11.22		第57回	同上 解説文統一形式について意見交換	9
12.11		パネル展 示	「建築空間におけるUD」パネルを県下建築設計関係四団体主催「市民と建築士・建築家が創るまち」(こうべまちづくり会館)にて展示～12.16	
12.20		第58回	「住み続けることが可能な住宅」マトリクス様式揃え	9
1.24		第59回	「住み続けることが可能な住宅」解説文、タイトル、目次等の検討	12
2.28		第60回	「住み続けることが可能な住宅」全体チェック	12
3.28		第61回	「住み続けることが可能な住宅」全体最終チェック	10

## 建築空間におけるユニバーサルデザイン

私たち建築士は、建築とまちづくりに携わる者として、またユニバーサル社会のハード作りの担い手として、ユニバーサルデザイン(UD)の考え方を普段から思考の原点として身につけておかねばならないものと捉え、平成15年に「ユニバーサルデザイン研究会」を発足させました。そして年10回程度の定例勉強会を中心に、建物とまちの検証、一般市民を対象としたUDワークショップセミナー、小学校におけるUD授業などの活動を続けてきました。メンバーは発足当初から女性建築士に限定せず、男性も多数参加しています。

### 1. 建築空間におけるユニバーサルデザインのキーワード

ユニバーサルデザインを理解するには様々なキーワードがあります。私たちは「建築空間」のユニバーサルデザインとして、下記のようなキーワードをピックアップし、普段からそれらに基づいて検証し、仕事にも活かしています。



「安全」「安心」であることは基本中の基本です。

「わかりやすい」のは使い方だけでなく、案内のわかりやすさ、見やすさも含まれます。

例えば、階段・エレベーター・エスカレーターなど、いくつかの選択肢があって、どれを利用するか「選ぶことができる」のもユニバーサルデザインです。

「楽」は「らく」であると同時に「たのしい」のもキーワードとなるでしょう。

「きれい」はデザイン的に優れているだけでなく、掃除しやすい形状で、掃除がゆきとどいて清潔であることも含みます。

「ゆとり」は空間の広さだけを意味するのではなく、初めての場所や初めて使うものであってもまごつくことがなければ、心にもゆとりができます。

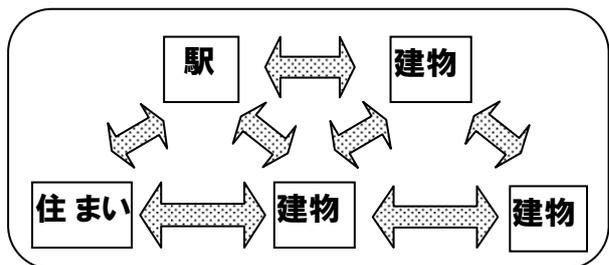
ユニバーサルデザインは“特別な人のための特別なものではなく、誰にとっても普通のもの”ですので「違和感がない」こともキーワードに加えしました。

### 2. 誰でも気軽に外出できる「まち」に

行きたいところがあっても一人では気軽に出かけにくく、行動範囲が限定されている人がたくさんいます。

車いすに乗った人・視覚障害の人など身体に障害を持つ人だけでなく、身体機能の衰えてきた高齢者・乳幼児連れ・日本語の読み聞きがよくわからない外国人等。ユニバーサルデザインは、ハートビル法・交通バリアフリー法・福祉のまちづくり条例などの後押しもあり、特定の建物、駅周辺などで徐々に取り入れられてきました。

しかし、「あの建物」の中、「あの駅」の周辺だけにユニバーサルデザインが存在するのでは不十分であり、場所と場所のつなぎ目(下記の矢印)も含めて連続的に整備されることが、これからの重要課題となります。



平成18年12月、ハートビル法と交通バリアフリー法を統合したバリアフリー新法(高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律)が施行され、国としても連続性、一体性実現に向けて一歩踏み出したことは皆さんもご存じのことでしょう。

### 3. もっと素敵なユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインは「誰にとっても」を謳い文句にしていますが、社会には多様な人々が共存していて、全ての人を満足させるハード整備には、残念ながら予算的にもスペース的にも技術的にも限界があります。それをカバーするのはお互いに支えあい、理解しあい、思いやる心です。私たち建築士も、ハード面の向上に努力すると共に、普段から「心」を大切に仕事に取り組み、市民の皆様から信頼される建築士となれるよう心がけたいものです。

## ユニバーサルデザイン研究会の活動ピックアップ

### 平成 15 年 8 月～17 年 5 月検証活動

様々な人(妊婦、乳幼児連れ、子供、高齢者、身体障害者、聴覚障害者、知的障害者、視覚障害者など)毎に、建築空間や公共交通空間にどんな問題があるか掘り起こし作業をし、平行して実際に各地に出かけて、ユニバーサルデザインの視点で検証しました。

Ex. 新幹線・私鉄・新交通(ポータライナー)などの駅と駅ビル、  
役所、デパート、大型ショッピングセンター 等。

また、JR 最寄り駅→駅前再開発商業施設→役所といった、「点」だけでなく、それらを「線」でつないだ「面」としての検証もしてきました。

乳児を連れての検証は、女性建築士ならではのこと→



### 平成 17 年 8 月ユニバーサルデザイン全国大会(神戸市で開催) 「建築空間におけるユニバーサルデザイン」パネル 作成・展示

それまで2年間に渡る定例会と見学・検証をもとに8枚のパネルを作成しました。

1. ガイダンスパネル
2. サイン・案内①～視覚に訴えるサイン～
3. サイン・案内②～視覚に頼らないサイン～
4. 階段・斜路～転落など大きな事故の多いところ～
5. 昇降～エレベーター・エスカレーター～
6. 公共トイレにおける“ユニバーサルデザイン”とその変遷①
7. 公共トイレにおける“ユニバーサルデザイン”とその変遷②
8. 街並み～駅周辺のユニバーサルデザイン事例紹介～



ユニバーサルデザイン全国大会会場風景(神戸国際展示場)

上記パネルを普及啓発部会と協力して各地で展示し、建築士だけでなく一般の方にも紹介

- ・平成 18 年 6 月「ひょうご森の祭典」(柏原市)
- ・平成 18 年 10 月建築士会全国大会(栃木県)情報パーク
- ・平成 20 年 2 月中播磨県民局ユニバーサル社会づくりフォーラム
- ・平成 20 年 12 月県下建築設計関係四団体合同事業(神戸まちづくり会館)

他で展示しました。

## 平成 18 年・19 年神戸市立高羽小学校ユニバーサルデザイン (UD) 授業をサポート

神戸市都市計画総局民間活力創造室ユニバーサルデザイン都市推進係による「UD 授業」プロジェクト(小学校校舎建て替えにあわせてみんなにやさしい「UD」の考え方を子供達に学んでもらい、子供達から出されたアイデアや提案を新校舎へ反映していく)に、地域の方々と共にサポーターとして参加。

平成 18 年は 5 年生 4 クラスを対象に 5 日間延べ 20 時間。平成 19 年は 5 年生 4 クラスを対象に 4 日間延べ 16 時間、6 年生 4 クラスを対象に 3 日間延べ 12 時間の授業をサポートしました。(※平成 19 年は UD 建築研究会に協力)



← 平成 18 年 UD 授業の報告集  
5 年生みんなで考えた新校舎の「わかりやすい案内サイン」と「みんなにやさしいトイレ提案」が掲載されています

平成 19 年、6 年生の力作 → 新校舎の「みんなにやさしいところ」を紹介するガイドブックを作成しました



## 平成 19 年兵庫県建築士会会報「つどい」に「建築空間におけるユニバーサルデザイン」を連載

平成 17 年に作成したパネルを基に改編、説明文を追加したものを、兵庫県建築士会会員の皆様全員に半年に渡りご覧いただきました。なお、平成 20 年 5 月に、これを 1 冊にまとめて発行しました。

### ↓ 内容の一部紹介



←トイレブースの扉



- ・視覚に訴えるサイン: 必要な情報を段階的に伝える。色をうまく組み合わせるとわかりやすい。
- ・視覚に頼らないサイン: 「五感」に広く訴えることで、多くの人に多面的に情報を伝える。
- ・階段・斜路: 様々な人が安全に、安心に、楽に通行できるように。人が押し寄せる緊急時の配慮も。
- ・エレベーター・エスカレーター: 安全、安心、乗降口で人が交差することがないように配慮。
- ・公共トイレ: 多種の設備があればいいだけでなく、「使えるもの」であることが大切。機能分散も。

### 現在の活動

「ユニバーサルデザインの視点から探る“住み続けることが可能な住宅”」(仮題)という、住宅計画において最低限必要な留意点をまとめる作業に取り組んでいます。これから住宅を建てるという方、住宅の計画～施工に関わる専門家などに役立てていただけることを願っています。

## [2] 家族と住まい方研究会

設立経緯	昔の日本の住み方と家族と住まいのかかわり、現代の子どもと住まいのかかわり、間取りの収集、nLDK形式の検証、これからの2世帯住宅、子ども部屋の是非など、多方面から住まいの実態を分析、検証し、今後のあり方を探りたく、平成15年7月発足
世話人	浜谷富美子(H15～H17)、松岡理香(H18)、岩井一枝(H19～現在)
メンバー (通算)	岩井一枝、尾瀬くみ、鈴木洋子、高田初美、田中八重子、垂水百合子、常俊桂子、浜谷富美子、日高俊二、平内節子、松岡理香、山本和代、横田佳史、和田圭子

家族と住まい方研究会活動一覧表(平成15年度～平成20年度)					
年度	月日	定例研究会			参加人数
H15	7.26	第1回	「家族」「住まい」に関する本紹介。子供部屋のあり方について意見交換	8	
	9.6	第2回	家族の付き合い方に特徴のあるプランの持ち寄り意見交換	7	
	11.8	第3回	子供室のあり方について意見交換	6	
	1.17	第4回	家族の付き合い方に特徴のあるプランの持ち寄り意見交換	6	
	3.13	第5回	子どもと住まいの現状調査の方向、今後の進め方検討	5	
H16	4.17	第6回	子どもと住まいの現状調査アンケート項目の検討	5	
	5.15	第7回	子どもと住まいの現状調査アンケート項目のチェック	6	
	6.19	第8回	子どもと住まいの現状調査アンケートの検討	7	
	7.3	第9回	子どもと住まいの現状調査アンケートの最終調整	7	
	7.31		アンケート発送	9	
	9.15		アンケート回収分整理	9	
	10.16	第10回	子どもと住まいの現状調査アンケートの集計方法の検討	6	
	12.4	第11回	子どもと住まいの現状調査アンケートの集計	6	
	1.22	第12回	アンケートのまとめ方とスケジュールの検討、マトリクスによる分析方法の検討	6	
	2.19	第13回	今後のスケジュールと作業分担について検討	4	
	3.12	第14回	研究に参考になる本の紹介。アンケート結果分析方法の検討	8	
	H17	4.2	第15回	研究に参考になる本の紹介。アンケート結果分析方法の検討	7
		4.23	第16回	研究に参考になる本の紹介。田中恒子氏講演と懇談	6
5.21		第17回	17°C見学の質問検討。アンケート結果分析。	6	
6.11			「芦屋17°C」見学	6	
6.26		第18回	アンケート結果分析	5	
7.10		第19回	アンケート結果分析	6	
8.7		第20回	アンケート結果分析	6	
9.10		第21回	アンケートの各グラフをもとに分担ごとに考察を検討	6	
9.25		第22回	セミナー報告「子育てしやすい空間のつくり方」アンケート分析・報告書作成について	4	
10.01		第23回	アンケート結果分析	3	
10.15		第24回	アンケート結果分析	7	
11.6		第25回	アンケート結果分析 まとめの検討	6	
11.13		第26回	アンケート結果分析 まとめの検討	6	
11.26		第27回	全建女分科会発表の準備。発表内容の確認。配布資料確認	8	
12.2			全国女性建築士連絡協議会参加(鈴木・浜谷・松岡・和田)		
1.07		第28回	すまいるネットセミナーについて打ち合わせ	8	
2.12			すまいるネットセミナー「どうする?子ども部屋」普及啓発部と共催(浜谷・松岡・和田)	20	
2.19		第29回	「つどい」の原稿内容の検討	8	
H18		4.8	第30回	アンケート報告書の検討。分担、スケジュール、構成など	6
	5.		子どもと家族の住まい方アンケート調査報告「つどい」に掲載		
	6.10	第31回	京町家住まい方見学(浜谷邸)とアンケート報告書作成検討	5	
	7.15	第32回	アンケート報告書の検討。文献紹介	9	
	9.9	第33回	アンケート報告書の検討。全建女報告など	4	
	10.7	第34回	「住宅情報」誌取材～子育て環境に必要な条件について	6	
	11.4	第35回	「こへ子育て応援マンション」認定「大阪市子育て安心マンション認定制度」の紹介	5	
	12.2	第36回	アンケート報告書のまとめ、今後の予定	5	
	2.17	第37回	アンケート報告書のまとめ作業、子育て支援制度についての評価	4	
	2.28	第38回	NEXT21見学(大阪市)	5	
	3.24	第39回	情報提「子育て支援マンションの基準」紹介、アンケート報告書のまとめ作業	6	

H19	5.26	第40回	アンケート報告書のまとめ・NEXT21見学報告 鈴木成文氏出版記念シンポジウム報告	4
	6.30	第41回	アンケート報告書のまとめ 事例研究 ル・コルビジェのユニテ	4
	7.28	第42回	アンケート報告書のまとめ 事例研究 小さな家の生活日記 芦屋タウンハウス	5
	8.25	第43回	「子どもと家族の住まい方アンケート調査報告」アンケート作成完了 事例研究 子ども達はユーコートから何を受け取ったか	3
	9.25	第44回	事例1「子どもだまりのある家」事例2「住空間の家族学」山田初江自邸 事例3 京の町家住まいその後(浜谷邸)	5
	10.27	第45回	事例研究1 住空間の家族学(山田初江設計住宅例) 事例2 田中恒子氏邸ほか	4
	11.24	第46回	次年度の予算について 事例「家族の変化に伴うリニューアル」	4
	12.22	第47回	事例研究(京都山科デビス邸ほか)	4
	1.26	第48回	事例1「搭の家に暮らして」事例2 シングル女性が家を建てる、ということ	4
	2.23	第49回	家を育てる食空間	4
	3.29	第50回	事例1「住まいの中の妻のワークスペース」事例2「町やを生かした職住一体型の住まい」 事例2「SOHO向け集合住宅にみる住む/働くの新しい形	5
	H20	4.26	第51回	事例1「未来育て一男と少子化」事例2 建築雑誌より「拡張する私んち」
6.14		第52回	事例1 建築雑誌より「拡張する私んち」事例2「サイトリノベーション」	4
7.15		第53回	家族研女性会員の設計した「子育て支援サークル」主催者の住宅見学	6
8.30		第54回	研究論文より「若い人たちの住まい」を探る	4
9.15		第55回	研究論文より「若い人たちの住まい」を探る。NEXT21の見学報告	4
10.13		第56回	団地再生シンポジウム参加の報告。事例「プライバシーと助け合いの安心住宅」	5
11.24		第57回	事例1 [全建女]資料より「住み替えに学ぶ」	4
1.24		第58回	事例「高齢者向け住まい探し」	4
3.7		第59回	事例研究「近代日本における家族観の変化と藤井厚二の実験住宅の試みについて	5

H17.6.11 「芦屋 17℃」見学



H18.6.10 (浜谷邸) 見学



H19.2.28 大阪市「NEXT21」見学



H20.7.15 姫路 T 邸 (尾瀬さん設計) 見学



# あなたの作った子ども部屋は活かされていますか？

## ～子どもと家族の住まい方アンケート調査～より

女性委員会 家族と住まい方研究会

### 1. はじめに

あなたはどんな子ども部屋を設計しますか？

‘ひきこもりやニートにさせない子ども部屋が欲しい’と依頼されたら？ ‘子どもが勉強する子ども部屋’って？

一口に子ども部屋と言っても、子どもの年令も、兄弟や姉妹の人数も様々。子どもは、子ども部屋で何をするのでしょうか？ 本当に子ども部屋は必要なののでしょうか？

私たち“家族と住まい方研究会”は、‘子どもと住まいの関係’に着目し、‘家族のかかわりあいと子ども部屋の現状を把握して、子育てしやすい住まいの提案につなげる’という目的で、アンケート調査を実施しました。

#### 調査概要

- a. 調査期間：2004年7月20日～8月20日
- b. 調査対象：20才未満の子どもと一緒に住む家族
- c. 調査方法：兵庫県建築士会の女性会員を通じて
- d. 配布数：210通  
有効回収数：116人(回収率:55.2%)

#### 回答家族の属性

- a. 核家族：87%
- b. 住居形態：集合住宅50%、一戸建住宅47%
- c. 子ども：延べ220人、男49%、女50%  
(0歳から社会人まで。内、小学生41%)

### 2. 子ども部屋を与えたけれど...

親は子ども部屋を、いつ、どのようなきっかけで与えているのでしょうか？

そして、その結果はどうだったのでしょうか？

#### (1) いつ、子ども部屋を与えるか？

第1子には、小学校入学時に与えているケースが半数。子ども部屋は、学習机などの置場となっているようです。

第2子以降では、幼児期と入学前でそれぞれ30%前後。子ども部屋を与える時期が、やや早まっています。きっかけも「新築・リフォーム」が最も多く、次いで「入園・入学」。上の子に子ども部屋を与える際、一緒に与えるケースもあるようです。

#### (2) 親の期待とは？

子ども部屋を与えてよかったと思う、主な理由。

- ・ 自分で片づけできる
- ・ 独りで寝られる
- ・ 自分から勉強するようになった など

つまり、親は‘子どもが自分で(独りで)〇〇できるようになる’という『自立』を期待しているようです。その効果がみられれば、子ども部屋を与えたことに満足できると言えます(図2-1)。

満足度は、子ども部屋の位置によって違いがみられます。「勉強するようになった」という回答は、**玄関**

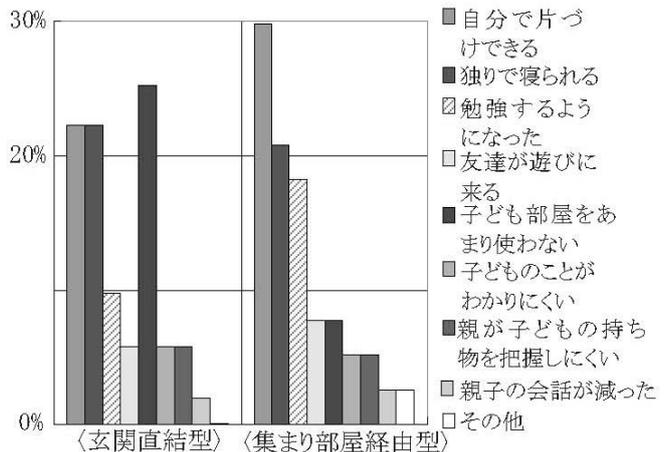


図2-1 子ども部屋の位置と評価の理由

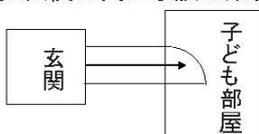
直結型\*1に比べ、**集まり部屋経由型\*2**の方が多いという結果です。

一方、与えてよかったとは思わない理由では、**玄関直結型**で「子ども部屋をあまり使わない」という回答が突出しています。

それらを裏付けるように、子どもが子ども部屋に居る時間は、小学校低学年までは**集まり部屋経由型**の方がやや長くなっています。小学校高学年で、ほぼ同じ。中・高生になると、逆に**玄関直結型**の方が長くなります。

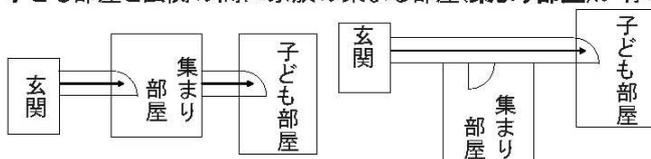
\* 1 玄関直結型

子ども部屋と玄関の間に家族の集まる部屋が無い



\* 2 集まり部屋経由型

子ども部屋と玄関の間に家族の集まる部屋(集まり部屋)が有る



また、中学生以上ではエアコンの有無に関わらず、子ども部屋に居る時間が長く、快適性とは無関係なようです。

子ども部屋は、

- ・ 主に『自立』を目的として与えられる
- ・ 利用時間は、子どもの年令、集まり部屋との位置関係などにより変化する

‘子どもの数だけ個室’というプラン(生活)提案にとらわれず、成長と共に変化する子ども部屋の役割に即した、柔軟な計画が望まれているようです。

### 3. 子どもの自立は？ 親の自立は？

子ども部屋を与えることによって、子どもの『自立』は促進されているのでしょうか。

#### (1) 親子が別寝するのはいつ？

親と別寝しているのは、小学生で 20%前後(図3-1)。子ども部屋を与えられている子どもの割合は、小学校入学時に約半数、小学校卒業までには約80%ですから、‘部屋を与えられても親と一緒に寝ている子どもが多い’ということがわかります。高校生以上ではすべて別寝していますが、中学生の15人中4人は、子ども部屋があるにもかかわらず別寝していません。

また、「何歳までに別寝させたいか」という質問には、「わからない」という回答が多く(図3-2)、「子どもが自分で言い出すまで」、「自然にまかせる」など「子どもの意志に任せる」という記述が目立ちます。親子ができるだけ長期間‘一緒に寝る’ということは、肯定的に捉えられているようです。

#### (2) 子ども部屋の掃除は誰が？

子どもは幼い頃から、子ども部屋の「机まわりなどを自分で掃除(机子床親)」しています(図3-3)。「子どもがすべて掃除する(全部子)」という例は、小学校高学年以降にみられますが、その割合は高校生以上でも4割弱。逆に、「全部、親が掃除をする(全部親)」という例があります。

つまり、子どもには小さい頃から部屋の掃除に参加させていますが、なかなか親の手を離れ難いということがわかります。

#### (3) 子ども部屋への入室

部屋に鍵をつけている事例は見られません。逆に、子どもが高学年になっても、親はノックなどせず、子ども部屋に「自由出入り(自由)」しています(図3-4)。部屋の位置別では、集まり部屋経由型の子ども部屋の方が、親が「ノックしてから入室する」という回答が多く、子どものプライバシーに配慮しているようです。

集まり部屋経由型の子ども部屋の場合、自然に親子が顔を合わせる機会が増え、親の子どもへの監視欲求が少なくなるのかもしれませんが。

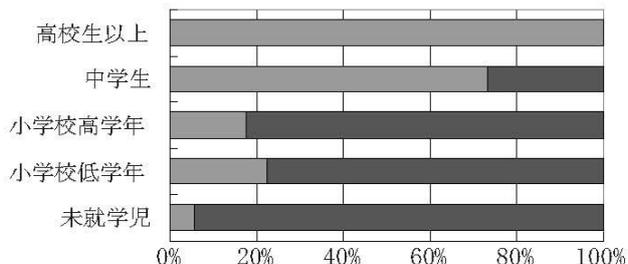


図3-1 別寝しているかどうか ■ 別寝済 ■ 未別寝

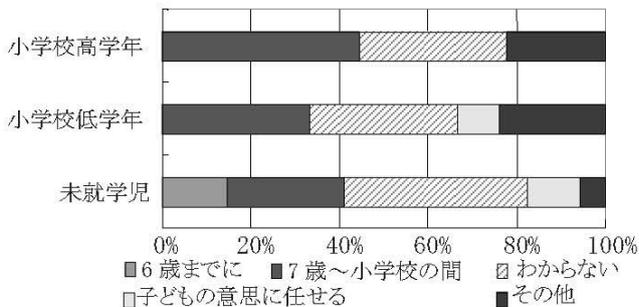


図3-2 未別寝の子 何歳までに別寝させたいか

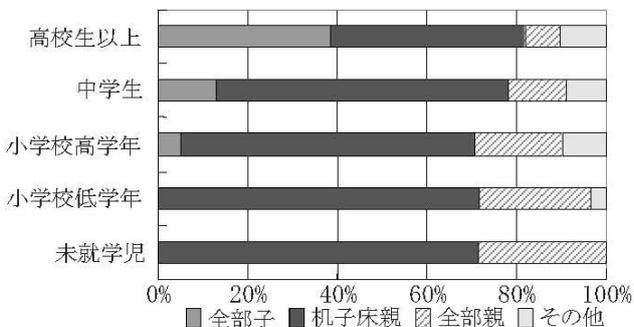


図3-3 年齢と子ども部屋の掃除

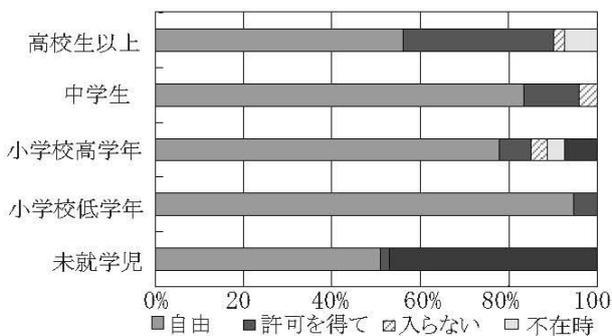


図3-4 子ども部屋への入室

『自立』を期待しているはずの親の実態は、

- ・ 別寝にこだわらない
- ・ 掃除は、高学年になっても積極的に関わる
- ・ 子ども部屋に自由に入室する

子どもに関する社会的不安を背景に、親は‘子ども部屋の中の子どもと、何かしら関係を持ちたい’のかもしれない。子ども部屋は必要だと思いつつ‘いつかはひきこもってしまうかもしれない危険なおもちゃ’と考え、子を監視するために掃除や入室をしているようにもみえます。その結果、親も子も、自立し難くなっているのではないのでしょうか。

#### 4. 家族のだんらんとは？

子育てで子ども部屋と、家族がふれ合う**集まり部屋**は、車の両輪のようにどちらも欠かせない場所として位置づけられるでしょう。そこで**集まり部屋**での『だんらん』に注目してみました。

##### (1)だんらんとは？

「集まり部屋ですること」で多かったのは、「テレビ」「おしゃべり」「食事」「読書」(図4-1)。親が家族の『だんらん』だと思っているのは、これらとほぼ一致し、多い順に「食事」「会話」「テレビ」「遊ぶ」「一緒にいる」です(図4-2)。最も多い「食べる」は、「子どもが家族と一緒に楽しいこと」の上位にもあがっています(図4-3)。

‘食を共にすること’は、家族をつなぐ最も大きな要素であり、手近かな『だんらん』であることを再認識する必要があるでしょう。

##### (2)子どもは集まり部屋で何をしますか？

「集まり部屋ですること」の中で、小中学生の多くが、「勉強」をしています(図4-1)。

年齢の大きな子どもがいる家族でも、各々が別のことをしながら、何となく家族と「一緒にいる」という空間の共有が、大きな安心感につながっているようです。これも『だんらん』の形態の一つと言えるでしょう(図4-2)。

##### (3)子どもが好きな場所とは？

家の中で「好きな場所」を子どもに質問してみると、「リビング」45%、「子ども部屋」27%。

年齢別では、中学生頃から「好きな場所」が、「リビング」から「子ども部屋」へ移行し始めることがわかります(図4-4)。

**集まり部屋は、家族と一緒に「食べる」ことを『だんらん』の中心に置き、同じ部屋で一緒に過ごし、各々が好きなことをする場所であるために、適度な広さと快適性が求められるのかもしれません。**

#### 5. おわりに

小学生以下の子どもは‘親の目が届く所を心地よい’と感じ、中学生以上は‘過度に監視されない場を好む’ようです。

個別ヒアリングで“**玄関直結型の子ども部屋**なので、友だちが気軽に遊びに来る。部屋は適度に狭く、子どもたちはリビングに出てきてジュースを飲んだりする。親との会話が生まれ、どんな友だちとつき合っているのかよく分かる。”という事例があります。

親子の十分なコミュニケーションは、親の不安を解消し、監視欲求や過度な干渉が減り、子どもの成長に応じた、親子の『自立』も期待できそうです。

①子ども部屋は、子どもの成長と共に柔軟な変化を

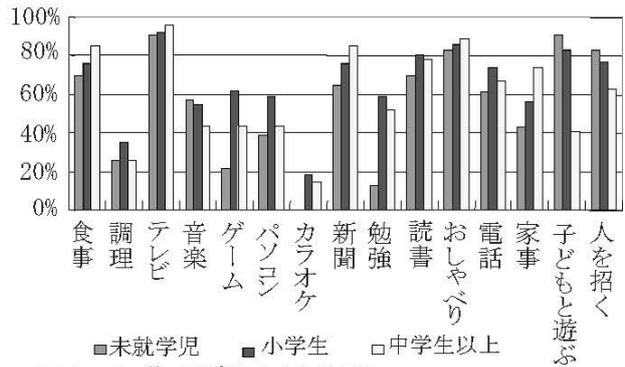


図4-1 集まり部屋ですること

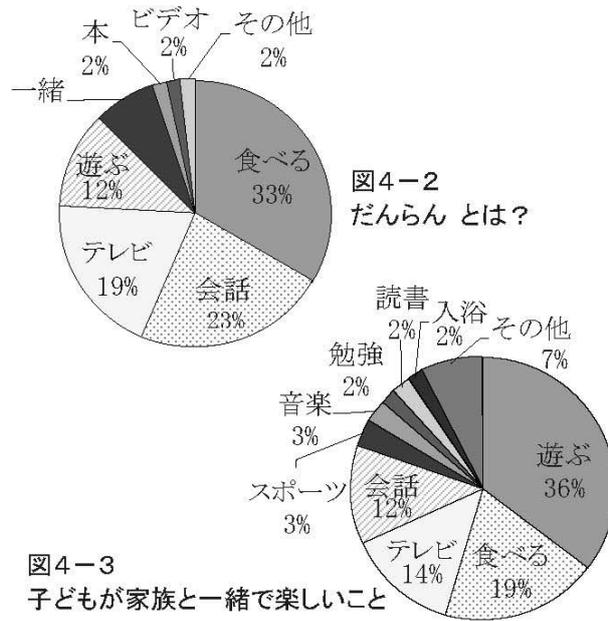


図4-2 だんらんとは？

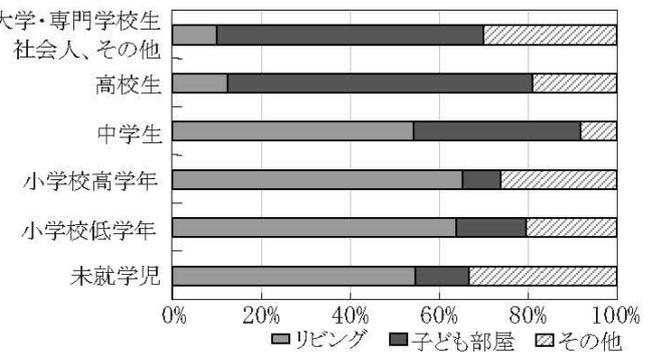


図4-3 子どもが家族と一緒に楽しいこと

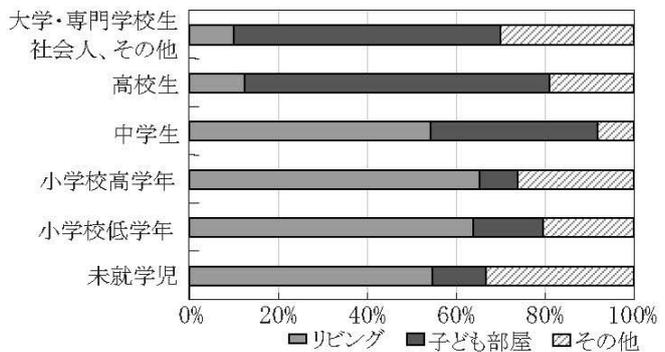


図4-4 年齢と好きな場所

- ・小学生以下：‘自立を促す場’ 集まり部屋と関係
- ・中学生以上：‘自我の発達の間’ 適度な独立性

②子ども部屋の管理は、成長に応じたルールで親子の『自立』を図る

③集まり部屋は、家族『だんらん』の広さと快適性 これらを、住宅設計の際には、ユーザーと共に考慮していきたいものです。

(岩井一枝、鈴木洋子、高田初美、垂水百合子、浜谷富美子、松岡利香、和田圭子：五十音順)

### [3]木構造木造住宅研究会

設立経緯	阪神淡路大震災以後、木構造への関心が高まっている。「木構造」には様々なテーマとアプローチがあるが、会員各自の関心事を出し合い、テーマを決めて勉強し情報を共有したいと、平成15年に準備会を経て発足した
世話人	長町奈百子(H15～現在)、栗林郁子(H15～現在)
メンバー (通算)	市成照一、尾瀬くみ、栗林郁子、瀬戸口茂、田中嘉之、常俊桂子、長町奈百子、西原誠助、原博元、東影みどり、日高俊二、深尾和夫、藤原義照、正木恵子、山川兼司、横田佳史(五十音順)

木構造木造住宅研究会活動一覧表(平成15年度～平成20年度)			
年度	月日	内容	参加人数
H15	7.18	準備会 研究会のテーマと会の進め方についての話し合い	5
	11.23	第1回 榊合掌原田量治氏を講師に、木の本質・木構造の根幹についての勉強会	12
	12.12	第2回 原田量治氏設計施工の住宅現場(奈良県橿原市)見学+木造トラス勉強会	3
	3.14	第3回 同上2回目 及び 今井町(重要伝統的建造物群保存地区)見学	12
H16	5.22	第4回 御蔵自治会館(神戸市長田区)見学+木構造の勉強会	16
	05.22	第5回 情報交換	12
	9.25	第6回 木造免震装置メーカーTHKを招いての勉強会	25
	11.26	第7回 免震構造勉強会	15
	11.27	第8回 藤田宜紀建築設計事務所+森林経済工学研究所(大阪府池田市)見学	12
	3.19	第9回 木造住宅図面についての勉強会。プレカット工場下見報告	6
H17	5.21	第10回 榊淀川プレカット(加西市)工場見学	19
	7.29	第11回 プレカット図面のチェックについて情報交換	9
	10.22	第12回 TSウッド和田さんの話を聞く会	9
	11.4	座談会 阪本功先生(東大教授)と木構造について座談会	14
	12.16	第13回 E-ディフェンスでの木造住宅破壊実験、耐震偽装事件等について意見交換、その他情報交換	7
	2.10	第14回 木造仕様書作成準備会	6
	3.31	第15回 木造仕様書作成に向けて第1回「基礎とアンカー」	10
H18	5.18	第16回 木造仕様書作成に向けて第2回「基礎とアンカー」	7
	7.5	第17回 木造仕様書作成に向けて第3回「基礎」	8
	8.30	第18回 木造仕様書作成に向けて第4回「基礎標準図」	10
	10.31	第19回 木造仕様書作成に向けて第5回「地盤」	6
	12.7	第20回 木造仕様書作成に向けて第6回「地盤調査・基礎」	8
	3.19	第21回 研究会についての検討	8
H19	4.12	第22回 木造仕様書作成について第7回「既成の仕様書について」他	7
	5.10	第23回 木造仕様書作成について第8回「接合部の納まり、金物カタログ資料検討」	6
	9.13	第24回 法改正木構造関連について情報交換	6
	10.18	第25回 情報交換会	6
	2.19	第26回 情報交換会	7
H20	5.22	第27回 限界耐力計算法、法改正に伴う確認申請内容についてなど	7
	5.31	見学会 在来工法住宅構造見学会(西宮市内)	6
	6.12	第28回 5.31見学会についての情報と意見交換	4
	6.28	見学会 超高層免震工法採用のRC造36階建てマンション工事現場(須磨区)見学	7
	10.9	第29回 今後の活動についての意見交換及び情報交換	7
	11.13	第30回 確認申請における木造構造審査の現状	10
	3.12	第31回 今後の活動についての意見交換及び情報交換	7

## 平成 17 年 5 月 21 日「淀川プレカット工場見学会」

場所 加西市田原町宮の谷 3179-3 株式会社 淀川プレカット

参加者:19 名

木造建築物の設計施工に今や欠かせないプレカットですが、工業製品でない外観・強度等にばらつきのある木という生き物を扱う以上、詳細な要求のある設計者・施工者側と機械の性能や作業性を考えざるを得ない工場側との意志の疎通について問題も多く、どうすることがベストなのか試行錯誤していたり、どうすべきかが分かりながらも時間的コスト的に無理があつたりしているのが現状です。

今回の見学会は、そのプレカットの問題点を整理して今後の実務に生かそうという目的で行われました。

勿論工場それぞれに在来工法中心であつたり、金物工法に力を入れていたり、力点の置く所が異なりますが、淀川プレカットは、扱う材の80%が集成材で、様々な工法に応えるべく20種類を越える加工刃物を揃えており、機械は宮川工機株式会社の製品を使っています。材木の持ち込み、設計者・施工者による番付にも対応してくれます。

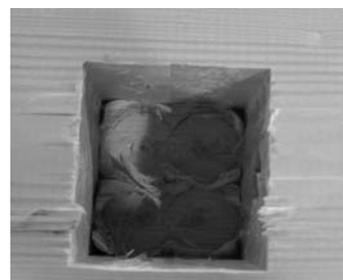
当日は、工場側からの説明、工場見学、事前に提出された質問事項に基づく工場からの回答と、参加者の質疑応答、というプログラムで行われ、様々な質問が出されて時間が延長されました。設計者は工場に対してどのような図面を出し、どのように進めるのが合理的かなどの話もありました。



<ほぞ>



<貼物>



<ほぞ穴>



<間柱>

## 平成 17 年 10 月 22 日「TSウッド 和田善行さんを囲んで」

参加者:11 名

TSウッドハウスは、平成 7 年に設立しました。

TSウッドの木材は葉枯らし乾燥で、山で 3 ヶ月間寝かし、その後六ヶ月間製材所で寝かせます。

その時には木材の含水率は 30%まで下がっています。高中温乾燥 120℃で 12 時間乾燥のドライグセット材は乾燥により表面が硬くなっており、内部ひびわれが生じます。

込栓を使った場合内部割れが発生していると有効に働きませんが、自然乾燥は表面に割れが発生しても芯までは到達しません。

強く、長く快適な木造住宅の鍵は乾燥方法に依ります。自然乾燥と人工乾燥の対比を示すと

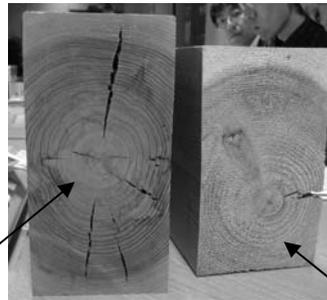
自然乾燥

人工乾燥

- ◎ 控え目な香り—————すっぱい臭い(酸性化=金物が錆びる原因)
- ◎ 表面割れがおきる—————内部割れが起きる(長柄込栓が効かないので伝統工法に不適)
- ◎ 色・艶が良い—————渋い色合い(辺材と心材の差がはっきりしない。)

- ◎ 十分に残った杉本来の成分—————殺菌力が落ちる(白蟻の嫌う成分が失われ、好む成分に変質)
- ◎ 長い時間をかけて朽ちていく————— 寿命が半分になっている。
- ◎ 自然エネルギーを使い環境負荷が少ない—化石燃料を使い環境負荷が大きい。
- ◎ 山で3ヶ月製材後6ヶ月—————1週間で間に合い経済的である。  
の時間と場所が必要

更に「木」についての  
本質的なお話を数多く  
聞かせて頂きました。



<人工乾燥>

<自然乾燥>

## 平成 17 年 11 月 4 日「坂本功先生と木構造について語る会」

参加者:14 名

配布資料:「木質構造の実験計画」(2005 年度日本建築学会大会(近畿)構造部門研究協議会資料)

「大大特プロジェクト②」についての資料

\*坂本先生からのお話を伺った後、自己紹介を兼ねた質疑応答を行いました。

### 1. 坂本先生のお話概要

#### 【木質構造の実験計画について】

- ・独)防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センターの実大3次元振動破壊  
実験装置(E-ディフェンス)の建設経緯と内容の紹介。
- ・現在、行われている振動台を活用した研究体制と内容の紹介。
  - ・既に終了した免震木造住宅と、伝統木造住宅の実験についての簡単な評価。
  - ・今月 15 日~26 日に予定されている在来木造住宅の実験の紹介。

#### 【今後の木質構造の展開】

- ・大規模木造建築、高層木造建築の実現(既に建築されているものもある)  
—防火の問題をクリアーすることが課題。
- ・伝統工法の再評価—限界耐力計算法による評価の展開。

### 2. 質疑応答

出席者からは木質構造の構造解析・  
免震構造の詳細から木質構造の理念に  
至るまで多岐に渡る質問が出された。  
坂本先生にはそれぞれの質問に対して  
大変丁寧に判りやすく答えていただいた。  
当初の終了予定時間をオーバーし、尚、  
時間が足りない程であったが大変有意義で  
貴重な機会となった。



## [4]よろず建築文化研究会

設立経緯	建築士の実務には直接的には反映されないかもしれないが、発想のヒントや自由な展開を得るきっかけとなるような活動を目指し平成18年に発足。研究対象は無限大。好奇心旺盛で、積極的に参加し、汗を流して楽しむ方々と不定期に活動しています。
世話人	後藤美香、澤木久美子、正木恵子(H.18～現在) 尾瀬くみ(H19～現在)
メンバー (通算)	岩井一枝、尾瀬くみ、後藤美香、小山美代子、澤木久美子、杉本雅子、瀬戸口茂、垂水百合子、常俊桂子、平内節子、高松範明、谷本祝紀、野崎瑠美、正木恵子、八木景子、山川兼司、山際洋子、山本和代、横田佳史

よろず建築文化研究会活動一覧表(平成18年度～平成20年度)

年	月日	研究会	参加人数
H18	5.22	第1回 『竹』 ～古川美智子氏を囲んで～	7
	11.06	第2回 吹きガラスを通じて“モノづくり”を学ぶ ～音堂多恵子氏を囲んで～	9
H19	7.31	第3回 日本人のころその1「キモノ」 ～三木久雄氏を囲んで～	8
H20	7.01	第4回 アートの居場所～島田誠氏を囲んで～	8

### 第1回 『竹』 ～古川美智子氏を囲んで～

日時:平成18年5月22日(月) 13:30～16:00

場所:CAP HOUSE 神戸市中央区山本通3丁目19-8 旧神戸移住センター内1階

ゲスト:古川美智子氏 工業デザイナー／竹アーティスト

参加者:7名 建築士会 横田 正木 澤木 後藤(記録)

C.A.P. 代表 杉山氏、アーティスト 山村氏、小澤氏

参加費:800円 (ワンドリンク込み)



研究会が開催された旧神戸移住センターは、昭和3年に国立海外移民収容所として建てられ、現在、保存整備をおこないながらアーティストの集いの場として活用されている建物です。場所をお借りしたリビングは、最低限修復をした建物の1階にあります。鉄製窓をツタが装飾した空間でお茶を飲みながら和やかに、しかし討議は熱心に時間を押しておこなわれました。古川先生からは竹の製作を思い付いたきっかけは、京都市洛西竹林公園に行った際に竹がゆらゆらと揺れる感じに惹かれたのがきっかけ、製作に使う竹は、モウソウチク、マダケだがモウソウチクは割りにくく作品にはマダケが適していることなど様々なお話を伺いました。



古川先生の作品「天真にして絶妙なり」



作品写真を拝見中

### 第2回 『吹きガラスを通じて“モノづくり”を学ぶ』 ～音堂多恵子氏を囲んで～

日時:平成18年11月6日(月) 13:30～15:40

場所:先生のアトリエ

ゲスト:音堂多恵子氏 ～吹きガラス作家

参加者:9名 澤木、後藤、石田、横田、山際、野崎、川添、尾瀬、正木

参加費:800円 司会:後藤 記録:正木

吹きガラス作家の音堂多恵子氏のアトリエで、先生のお話を伺い、建物を拝見しました。先生はガラスとの出会いから現在に至るまでの作家活動についての思いや変遷、様々なガラス作品を生み出す技術やアイデアや新しい試み等を、作品を見せて頂きながらお話下さいました。築12年のアトリエ建物は、建築当時の良い意味での緊張感から解き放たれて熟成されたワインのような味わいでした。

## 第3回 日本人のこころ その1「キモノ」

### ～三木久雄氏を囲んで～

日時:平成19年7月31日(火) 13:30～15:40

場所:「丸太や」店舗内(神戸市中央区元町通1-7-2)

ゲスト:三木久雄氏 ～「丸太や」取締役社長

参加者:8名 垂水、横田、野崎、常俊、澤木、尾瀬、正木、小澤

参加費: 建築士会会員800円、会員外1,000円

司会:(前半)正木、(後半)澤木

記録:正木

写真:尾瀬、正木

チェロのモチーフが印象的な  
「丸太や」さんのお店先



よろず建築文化研究会も第3回目となりました。今回は、神戸・元町の老舗呉服店「丸太や」さんを訪ねて、社長の三木久雄氏に日本文化、キモノの歴史などのお話を伺い、店内やギャラリーの美しい貴重なキモノや小物などを拝見させて頂きました。三木氏は歴史への造詣が深く、歴史から見た日本文化へのアプローチ、とりわけ我々建築士顔負けの森林資源と水の豊かな日本であったからこそその木造建築の変遷を日本の気候風土から捉えられたお話を興味深く伺いました。さらに、建築と同様に水の豊かな国である日本の風土がキモノの美しい染織の技術を発達させたこと。特に商品価値の無い「くずまゆ」から途方も無い労力を経て世界で一番強い布と言われる結城紬を生み出すお話は、さしずめ現代では「ゴミ」となるものを美しい織物に昇華させていることであり、「地球環境への配慮」の原点と感じました。お店で扱われる商品は三木氏ご夫妻が音楽をされているご関係で楽器などをモチーフにした「丸太や」さんオリジナルのもので、モダンでありながらも品の良い品々ばかりでした。

#### ○講師紹介: (垂水さんより三木さんのご紹介をして頂きました)

垂水: 店頭で素敵な柄の帯を見つけたときがお店との出会いでした。

それ以降、お付き合いをさせていただいています。こちらでは、着る人が生きるデザインを考えられ、そういう価値観を共有される作家の方々のお仕事をされています。折々に私もキモノの知識から暮らし方や日本文化の伝統など教えていただいています。

#### ○ゲストトーク:三木久雄氏

##### [日本文化とは何か?]

自分の中で歴史を見るポイントは「変わっていった部分」と「変わらない部分」を知ることです。例えば、日本の建築の分野で「変わっていった部分」は形や工法がありますが、大きな流れとして「変わらない部分」は木造であることです。これは、森林資源の豊かな国であったこと、そしてその資源を輸送する川があったことです。日本の固有の文化は気候風土の要素が大きく、木の文化もそのひとつだと思います。例えば、私は弦楽器を演奏しますが、西洋の弦楽器が日本に入って来た時、日本人は非常に親近感を持ったのですが、これは、弦楽器が木で出来ているからと言われていました。

##### [日本の風土と染織]

「染め」には水が必ず必要です。日本は水が豊かな国です。そこで、染めの技術が発達したのは自然なことです。例えば、京都の友禅は鴨川で友禅流しをしていましたし、江戸でも隅田川沿いの両国などでは「ゆかた」、神田川沿いでは「江戸小紋」が産出されました。世界的に見ても川(水)の無い地域には染めは無く、織りと刺繍が発展しました。ここで言う、「染め」とは白い布を染めること、「織り」とは糸を織ることです。



「丸太や」さんの店内で三木氏のお話を伺う

通常ひとつの蚕から1500mもの1本の生糸が取れますが、まれに中の虫が繭の一部を食い破ってしまうことや2匹の蚕がひとつの繭をつくってしまうことがあります。これらは「屑繭」と、言われ商品価値はありません。勿体ないので、これらの「屑繭」から短い糸を取り、これを真綿にし、紡いで糸としたもので織られたのが「紬」です。有名な結城紬は、いざり機での機織りという方法で織られます(注:伝統的工芸品の場合)。これは経糸のテンションを人間の身体で調整しながら織りますので出来上がった布は緯糸と経糸が絶妙の力で絡み合い、着心地も良く、非常に強いものになります。

木綿は江戸時代になって庶民の間に広がりました。8世紀に木綿は入ってきたのですが、その時は日本では育たず、江戸時代に栽培出来るようになりました。今も昔も「着心地」と「おしゃれ」を人々は求めてきました。江戸時代に手描き友禅の技術が発達して、キモノに自由な絵模様が産まれました。それ以前は、刺繍や摺箔や辻が花と呼ばれる絞り染め技術で模様を表していました。南方から入ってきた更紗染めの蠟による防染技術に学び、日本では蠟の代わりにもち米の糊を使うことで手描き友禅が発達しました。扇絵師であった宮崎友禅齋の描く「ひいながた」(見本帳)が大変な人気を博しました。

#### ○フリートーク+ディスカッション(持ちネタ発信或いは感想など)

Os:キモノをまた着てみたいと思いました。一時中断していたのですが最近再び乗馬を始めました。気持ちいいです。

Tu: 商品を拝見してとても目の保養になりました。最近自宅に床の間を作りました。そこに飾る書を書いたりして楽しんでいます。

N: 以前、松阪で設計した折に、地元の松阪木綿をふすまにあしらってみました。学生時代、女性の服装史の研究をしていましたので今後、キモノがどのようになってゆくのか興味があります。

Oz: 能を観る機会もあり、又、相撲も好きなので行司の装束に以前から関心を持っています。母の実家が盛岡なので紫根染の小物を持ってきました。最近殆ど初めてキモノを着る機会があって出かけてみましたが以外に疲れが無く、帯を締めていることや、歩き方などに無駄が無いこと、礼儀も良くなることなど精神的にも身体的にもよいのではないかと感じました。自然の素材で出来た着物を身にまとうことは自然と一体になっている感じがします。

Ta: 志村ふくみさんの作品を拝見する機会があったのですが、自然を愛でて、自然と調和することに現代人が「和」を求める理由があると思いました。絶対一神教ではなく、自然の中に神がある～神との共存～という、日本人の考え方は改めて今の新しい時代にも必要とされているのではないかと思います。夏目漱石も西洋から技術は学べたけれど「こころ」は、学べなかったと言われます。世界に出たファッションデザイナーも行き詰ったとき答えを求めたのは日本の染織の世界だったと聞いています。

S: 5月に友禅のキモノを着る機会がありました。キモノを着ると、日常とは所作も言葉も子供の叱り方まで変わります。(笑) 先日、CAP で左官のイベントをしました。珪藻土の入った壁を実際に参加者に塗ってもらいました。その中で、無心になれたという感想がありました。これはとても嬉しい感想でした。忙しい日常の中で1分だけでも無心の時間を取りたいと思いました。

M: 今回も本の紹介です。「真砂屋お峰」有吉佐和子著(中公文庫)です。江戸時代のお話ですが、衣装比べが出てきます。沢山のキモノの描写を読みながらそのキモノを想像するのがとても楽しいです。それと、材木商の話でもありますので、江戸時代の木の話、大工の話、山の話など、現代の問題点とも共通するところもあります。痛快時代劇です。是非、お勧めします。

Y: 「和」という字を自分の子供にもつけました。リラックス～和らぐこと～、人にとって和らぐこと、住む人に、着る人に、ものづくりは人のためであると感じます。村野藤吾さんは暇があると反物をよく見ていたと聞きます。何を見ていたのか今となっては何えないのでわかりませんがそれを感じ取りたいと思います。仕事も楽な方ではなく、常に問題提起して進めて行きたいと思います。



後方は、着物姿の素敵な奥様  
ご主人との息もぴったり



追記: 三木久雄氏は、神戸商工会議所が運営管理する「こうべブログ」に毎日ご自身のブログを書かれています。とても楽しいブログです。是非一度ご覧ください。

<http://kobeblog.net/u/55264a/>

## 第4回 アートの居場所 ～島田誠氏を囲んで～

日 時:平成20年7月1日(火) 13:30～16:00  
場 所:「ギャラリー島田」(神戸市中央区山本通 2-4-24 リンズゲートB1F)  
ゲスト:島田誠氏 ～「ギャラリー島田」代表  
参加者:8名 垂水、横田、野崎、杉本、澤木、尾瀬、正木、小澤  
参加費:建築士会会員800円、会員外1,000円  
司 会:正木  
記 録:正木 写 真:尾瀬、正木



ギャラリー北側の吹き抜けから作品を覗き込むことができる

よろず建築文化研究会も第4回目となりました。今回は、神戸・北野の安藤忠雄氏設計の建物で意欲的なギャラリーを経営され、芸術文化に造詣が深く、地元神戸で多方面にご活躍されている島田誠さんにお話をさせて頂きました。島田さんのこれまでのご活動について貴重なお話をお伺いすると共に、安藤建築を側面から知る事も出来ました。丁度ギャラリーではこのよろず研の第1回を開催させていただいたCAPのメンバーでもある上村亮太さんの作品展が開催中で、個性溢れる作品を時間の流れとともに拝見することも出来ました。又、建築後、20数年を経た建物は風格が出てきて、梅雨の晴れ間の木漏れ日と緑が調和したとても気持ちの良い空間となっていました。道路側から吹き抜け部分を覗くとアートを上から鑑賞することも出来ます。アート達はその「居場所」で幸せそうに見えました。島田氏からはギャラリー30周年記念誌をご厚意で参加者全員にプレゼントして頂きました。ギャラリーの歴史が凝縮された大変美しく貴重なものです。

### ○講師紹介:(野崎さんより島田さんのご紹介をして頂きました)

野崎:島田さんは高校の先輩でもあり、長年お付き合いをさせていただいています。

島田さんの魅力は、高い理想と溢れる熱情、そして素晴らしい行動力です。

今日は尊敬する島田さんのお話を伺うことが出来ますことを嬉しく思います。

### ○ゲストトーク: 島田誠氏

#### 【アートとの出会いと人生の転機】

私は昭和17年に神戸で生まれ、神戸で育ちました。生粋の神戸っ子です。中学時代から合唱部で音楽に親しみ、社会人になってからも合唱団に入り、そこで指揮もしました。大学卒業後、普通に就職して会社員となり結婚しました。

その後、縁あって妻の実家の書店を継ぐことになりました。義父に頼られての結果ですが、他の商売でなく書店であれば何とか出来るのではないかと考えましてお受けしたわけです。書店は元町の賑わいの(当時としては)西の外れといった立地条件でしたので、特色を出すために児童書と画廊に力を入れようと考えました。私は、人生の岐路に於いて普通の人ならば選択しない方へ歩いていると感じます。(写真1)横尾忠則氏の絵)リスクの大きいほうですね。大企業のサラリーマンの道をやめたわけですから。(笑)その後は、元町まちづくり委員会などの活動を通じて神戸の行政や芸術文化を見てきました。

#### 【志したものと達成感】

私はアートの世界が好きだったので、その世界で頑張っている人を応援したい、手伝いたい、サポートしたいという気持ちを持っています。それは、絵に限らずあらゆるアートに対してです。有名なゴッホとテオの書簡集というのがございますが、私はテオに強く共感します。テオはゴッホよりむしろ悲惨な人生であったと思います。恵まれず、自分の才能を信じて頑張っている人をこれからも応援したいと思っています。高い志を持った人、例外を除き、基本は今、生きている人です。30年この仕事を続けていることで、達成感があります。亀井純子文化基金(注1)でアーティストへの助成を続けてきたり、アート・エイド・神戸(注2)で震災後に文化で復興をお手伝いしたりしてきました。又、別に新しく神戸文化支援基金の設立を準備しています。



島田誠氏



「ギャラリー島田」  
30周年記念誌



アートに囲まれてお話を伺う

## 【一番嬉しかったこと】

様々な活動をしていると、思いがけないところからの人の善意や協力を得られることがあります。そういう時は非常に嬉しく思います。それから、作家の方について嬉しいお話をしますと、アートに命をかけている人達に或る時突然どこかでスポットが当たることがあります。例えば、石井一男氏や山内雅夫氏(注3)などがその例です。そういうことですから、作家の方たちには「とにかく今しか出来ない良い仕事を残しておいてください」と申し上げています。

## 【文化や芸術の生活への浸透】

お配りした資料のピラミッドの図(写真1及び別添1)を見てください。都市の中で、このピラミッドを構成する4つの階層がバランスよく共存しているのがよい状態と考えます。それは多様性のある社会であるということです。残念ながら神戸はこのピラミッドの下の2層を良しとして感じます。これより上の部分は神戸に生じる土壌が少ないと思います。

## 【NPO 活動や市民活動】

私は、文化人でも経済人でもありません。自称「こうもり」と言っております。こうもりは鳥でも獣でもないからです。英語では正義の味方ですしね。この様に、ピンバッチもこうもりのデザインのものをつけています。文化と経済を繋いでゆく役割を担うという思いもあり、私は自分をNPOの枠を超えた人間だと考えています。しばしば、NPOの中だけにいますとNPO的論理だけで内向きになってしまい外への批判が多くなる場合もあります。一方で、経済人にはスケールの大きな方がいらっやいます。そういう方達を橋渡しするという役目を担うということです。それは企業・文化・行政が癒着やもたれ合いではなく共存するということです。

## ○フリートーク+ディスカッション(持ちネタ発信或いは感想など) (抜粋)

Sa:今日はCAPの仲間である上村亮太氏の作品が展示されているのを拝見できて嬉しく思いました。

Os:子供を連れてギャラリーなどへ行きたいのですが、現実問題として連れて行くにくいと感じます。

Y:私は海の傍で育ち、自然を通して自分は育まれたと考えています。そういう点で、神戸は住みにくく感じています。最近では故郷に帰りたいとも思います。

Su:リランズゲートへ伺うのは今日で2回目です。居心地のよい空間ですね。先程のお話のピラミッドの中では私は1階の人かなと考えました。

M:以前、静嘉堂文庫美術館で国宝の曜変天目茶碗を拝見したことがあります。アートであるのか道具であるのかの境はどこにあるのでしょうか？

島田:作家は道具として作ったと思いますが、それが時を経て人に「美としての感動」を与える価値のあるものがアートになり、それが「美の力」と思います。

Oz:価値判断基準、「今」という時間、宇宙軸というお話が最近始めた山登りとアートと共通するところがあり嬉しく思います。絵の価値判断・値段については？

島田:日本・海外を問わず、作家に卑しさが無く、狂気を含み「品格」を持つ絵に価値を感じます。値段は作家が決めることが多いです。

T:安藤忠雄氏設計のこの建物はRCの打放しが年月を経て風格が出て、敷地内の豊かな緑がコンクリートの硬さを和らげていると感じました。使用されている感想を是非お伺いしたいです。

島田:この建物はバリアだらけですが、画廊なので使い勝手はあります。私は気に入った空間です。一般的には使い難い空間ではないと思います。

N:昨年解体された旧室谷邸について、部分保存であっても歴史を伝えたいと思い移築再建の活動をしています。島田さんはアートについてはどのように後世に伝えたいと思っておられますか。

島田:これまで、アートに携わって来て良かったと思っています。こういう作家がいたという居場所を残してあげたいですね。具体的には公的などに芸術を納めていくことをさらに進めたいと考えています。

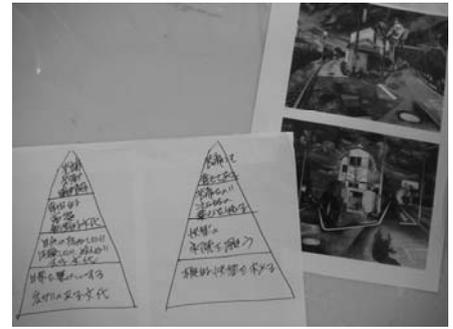


写真1



お向かいの喫茶でトークの続き



建物と緑の調和

注1) 公益信託・亀井純子文化基金  
<http://www.gallery-shimada.com/foundation/index.html>

注2) アート・エイド・神戸  
<http://www.gallery-shimada.com/artaid.html>

注3) 作家紹介  
<http://www.gallery-shimada.com/artists/index.html>

## [5] 古建築・近代建築・古材研究会

設立経緯	古建築・近代建築などを調査研究することにより、今の建築に活かせる技術などを学ぶ。
世話人	竹本香代、山本和代

古建築・近代建築・古材研究会活動一覧表(平成15年度～平成20年度)				
年度	月日	内容		参加人数
H15	08.09	第1回	御蔵古民家再生現場見学。古民家解体の映像(ビデオ)鑑賞。小舞組み作業体験。	4



見学時は筋交い以外の構造体ができていました



古在を使い、足りない部分は新しい木材を使用



木舞の様子。見学者も木舞の取付けに参加しました



古民家再生の経緯を担当者から伺う

## [6]見学研究会

設立経緯	単発開催。興味のある建築を見学する
世話人	常俊・山本・尾瀬(第1回)、常俊・杉本・和田・尾瀬(第2回)

見学研究会活動一覧表(平成15年度～平成20年度)			
年度	月日	内容	参加人数
H16	01.24	第1回 国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)見学、エイジレスセンターの福祉機器等展示場を見学の後各自自由体験。(UD研究会と共催) 講師:田中直人氏	27
H20	11.07	第2回 佐川美術館楽吉左衛門館見学と設計者による講演、佐川美術館自由見学 講師:内海慎介氏(竹中工務店大阪本店設計部)	18

### 第1回



国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)を、田中直人先生の案内により見学

### 第2回



佐川美術館楽吉左衛門館を外部から(左)  
佐川美術館本館前で(右)

2007年に佐川美術館に増築された楽吉左衛門館は、今回の見学会の講師をお願いした竹中工務店内海慎介氏が本館に引き続き設計監理されたものである。同館は、千利休の言葉「守破離」をコンセプトに、水庭に浮かぶように建てられた茶室と水面下の地下展示室の2つで構成されている。

当日は、まず、内海慎介氏に約1時間にわたってご講演いただき、計画から完成までの経緯やエピソードをスライドを交えて伺った後、同氏に案内していただいて館内を見学した。十五代楽吉左衛門氏の創案である茶室は、「葦の茫々と茂る水庭にうかぶ現代の茶室、水のイメージを生かした非日常空間の創出」を目指したものであり、茶室の既成概念を越えた空間を実現するために、黒色コンクリート打放しの開発、原寸模型による茶室空間の検討、素材の選定、浄化された水庭での水生植物の生育など、あらゆる部分で試行が繰り返されたそうである。地下展示室では、水とガラス天井を通して入る太陽光の揺らめきや、楽氏デザインの展示台にゆったりと配された陶芸作品を彩る光と影の対比が印象的であった。

楽氏の感性に形を与えるためにあらゆる努力を惜しまなかった設計者や関係者の姿勢には、見学会の参加者からも多くの感嘆の声が上がった。そのようにしてできあがった空間は楽家の伝統に則りながら斬新な造形美で貫かれているが、それはまた、季節や時間によって移ろう光や風や水と来訪者との一期一会の経験の介在を許容する奥ゆかしい空間でもあり、葦原が広がっていた琵琶湖の原風景に寄り添いながら近江の風土と調和する空間でもあるように思われた。

## [7] 検証シリーズ

設立経緯	単発開催。関心のあるテーマ、時事的テーマについて取り上げる
世話人	第1回 田中八重子、第2回以降は健康な住まいを考える会世話人

検証シリーズ活動一覧表(平成15年度～平成20年度)			
年度	月日	内容	参加人数
H15	7.22	第1回 7月法改正(シックハウス)対策「24時間換気」セミナー 講師:三菱電機ライフファシリティーズ関西営業部市場開発課松田氏	9
H16	12.9	第2回 「実務に役立つ塗料の知識と安全性について」 講師:日本ペイント、ターナー色彩各担当者 -健康な住まいを考える会との共催	21
	2.27	第3回 「電磁波問題を考える」～家電製品から携帯電話まで 講師:荻野晃也氏(電磁波環境研究所)-健康な住まいを考える会との共催	43
H17	7.21	第4回 「建築士としてシックハウス問題の今を考える」 講師:野池政宏氏 (健康な住まいを考える会との共催)	24
H20	12.1	第5回 「どんな根拠を基にエネルギー源を選択すべきかを検証する」 講師:野池政宏氏 (健康な住まいとくらしを考える会との共催)	13

### 第1回:法改正対応研究会「24時間連続機械換気について」

日時:平成15年7月22日 場所:すまいるネット

講師:(株)三菱電機ライフファシリティーズ 関西社 関西営業部 市場開発課 松田 一清氏

小人数であったので講師の説明の間に随時質問を交えての講習会となった

以下、説明と質疑回答の抜粋

換気方式には3種類あるが、第2種はカビ・臭い発生でクレームがつく可能性がある(気密性が高くないと入った空気がすきまから壁の中や天井に逃げていき、室内の汚れた空気がうまく排気できない)ので推奨できない。第1種か第3種方式を選定すること

換気扇の静圧—風量特性曲線の見方

抵抗が大きくなると静圧が発生する → 風量が小さくなる

スイッチは切られにくいように長く押しすとか、蓋をすとか工夫しているが、基本的に「入り切り」は住人の自由。要は自己責任

第3種の給気口の大きさは特に規定されていない

延焼ライン内の給気口にFD必要か?確認機関に問い合わせてください

24時間パイプファンの寿命は5年ぐらい

第1種の給気ファンにはフィルターがついている。目詰まりするので2-3ヶ月に1度は水洗いか掃除機をかけて掃除しないとイケない

エアコンつけるなら熱交換型換気扇ロスナイをつけると、インシャルコストは上がるがランニングコストは下がる

1室で完結するなら同時給排する機種がある。秋に非熱交換型の機種を発売する予定

エアコンに換気機能のついたのはないのか?ない

機種選定時には住人にそれぞれのメリット・デメリットをよく説明し、じっくり考えて選ぶこと

換気扇についての質問は

三菱電機建築基準法換気設備ご相談センター 0120-24-4672 に 中津川製作所につながる

## 第2回:材料セミナー「塗料Part2」

日時:平成16年12月9日 場所:すまいるネット 講師:日本ペイント、ターナー

実務に役立つ塗料の知識と安全性について塗料メーカーにきて頂き、Q&A型式で行われました。

参加メーカーは老舗の日本ペイントと絵の具でおなじみのターナー色彩の2社で、建築基準法改正後のメーカー対応など気になることを事前に質問事項として伝えておき、各社に回答を用意していただきました。日本ペイントは内・外装共水性・ターナーは木部専用の植物油又は水性と、どちらもVOCに配慮した溶剤を使った製品が主力で、安全性に配慮した姿勢が窺われました。休憩時間にはテルペン油や密ロウなどの臭いを嗅いで、低臭であることを確認しました。

質問は23問あり、安全性に関わるものや施工上の注意など疑問に思っていることを直接聞くことができ有意義だったと思います。基準法改正後メーカーの取り組みは早く、ホルムアルデヒドは一扫して有害物質と思われるものも不使用になっている外、自然素材＝安全とは決して思わないようにという言葉が印象に残りました。素材を選び施工していく中で、常に安全性を使用者と共に確認していくことがシックハウスを未然に防ぐ方法と感じました。パンフレットや様々な塗料見本を用意して下さったメーカーに感謝致します。

## 第3回:電磁波セミナー - 「電磁波問題を考える」・・・家電製品から携帯電話まで・・・

日時:平成17年2月27日

場所:すまいるネットセミナールーム

健康な住まいを考える会の今年度最後のセミナーには、電磁波問題に詳しい電磁波環境研究所の荻野晃也先生をお招きしました。先生は京大在職中の1979年、スリーマイル島の放射能調査のため渡米の折、同年ワルトハイマー博士が電磁波と小児ガン発生の関連について論文発表されたことを耳にされて以来、電磁波問題に関わっておられます。このセミナーでは電磁波の基礎的なこと及び電磁波の影響についての調査研究の結果の抜粋を資料としてお持ちいただき、客観的に且つわかりやすくお話をうかがうことができました。

地球自体も500mG(ガウス)という大きな磁場をもっていますが、今問題になっているのはそのような静磁場でなく、自然界に存在せず人間が作りだした変動磁場だそうです。

心臓ペースメーカーの誤作動、中華航空機の墜落など電磁波が原因の事故もありましたが、その他にどのような問題があるのかというと、

- ・送電線の近くに住んでいる子供に小児白血病や脳腫瘍の発症率が高い
- ・電磁波を浴びる職業の人に白内障、流産、ノイローゼ、てんかん、白血病、脳腫瘍、ガン、アルツハイマー、ALSなどの発症率が高い
- ・夜に作られ人間の体内時計に関連しているといわれるホルモンであるメラトニンが減少する。メラトニンには睡眠促進、ストレス抑制、酸化防止、ガン抑制その他の効果があるといわれている
- ・携帯電話から出るマイクロ波の脳への影響 等、書ききれないほどの影響が電磁波にはあるのではないかという問題です。

まだ100%電磁波の危険性が確立されてはいませんが、外国には電磁波の生物影響に関する多くの調査研究報告が発表されており、スウェーデンでは1990年代初期から国をあげて対策に取りかかっているそうです。しかし、日本では政府もマスコミも電磁波問題や諸外国の動きをほとんど報道せず、国民は知らされていない状況です。悪影響が証明されてから行動するのでは遅い。悪影響があるものとしてできるだけ電磁波被曝を避ける予防原則が大切であり、特に身体の水分が多くて細胞分裂が活発である胎児や乳幼児が最も影響を受けやすいため、胎児・乳幼児の立場で見ることが大切であるとの荻野先生のお話でした。

電化製品からの電磁波被曝をできるだけ避ける方法としては

- ・電磁波の低減されている製品を選ぶ

- ・電磁波は離れると急激に低減するので発生源からできるだけ離れる
- ・使用時間を短くする
- ・使わないときはコンセントから抜いておく
- ・携帯電話についてはイヤホン使用が有効であるが、イヤホンを使わない時は電話と中継タワーの間に頭が入らないような位置に移動する 等をあげられました。

健康な住まいを考える会では、数年前から簡易電磁波測定器の貸し出しをしています。私もこのセミナーに先立って測定器を借りて家の中にある電化製品を測定してみました。テレビやパソコンのディスプレイ、ヘッドライヤー、電気毛布、電気カーペットその他多くの電化製品から強い低周波が出ていました。スイッチを切っていてもコンセントにつないでただけで電磁波が出ているものもありました。電子レンジや DC アダプターなどがそうで、電子レンジからは高周波も低周波も出ています。電磁波は発生源から離れると急激に弱くなることも確認しましたが、身体に接触して使うものは心配なのでこの冬は家族全員の電気毛布・電気カーペット類の使用を禁止しました。

シックハウス問題が、便利さを享受するために安全性の確認がされないまま化学物質を多用して起こっているのと同じことが電磁波でもいえるかもしれません。現代の生活から電化製品や携帯電話を一切切り捨てることは出来そうにありません。それだけに我々世代だけのことでなく子供たちの将来のことも考えると、消費者はコマーシャルやブームに迂闊に乗ることなく賢い選択をしなければいけないことを痛感しますし、一方で国や電力会社やメーカーには情報を開示し、早急に善処して欲しいものだと願わずにはいられません。

## 第4回:シックハウスセミナー

日時:平成 17 年 7 月 21 日 講師:野池正宏氏

シックハウス問題はおよそ以下のような傾向

1. 「シックハウス問題」について知らない人がほとんどいなくなった
2. 汚染状況は改善されてきている
3. 1および2の状況によって、被害件数が減少していることはまず確実。相談件数も減っているだろう
4. 欠陥住宅に関わっている人たち(建築士、弁護士)が増え、さらに認識され、そこに相談する割合が増えているだろう
5. ホルムアルデヒド、トルエン、キシレンという主要な化学物質による被害(被害相談)は減り、TVOCによるものの割合が増えているように思われる(あくまで割合です)

## 第5回:エネルギー問題勉強会

日時:平成 20 年 12 月 1 日 場所:すまいるネットセミナー室 講師:野池正宏氏

どんな根拠を基にエネルギー源を選んだらいいのかを考えるために、数値とその持つ意味を詳しく解説して下さった。

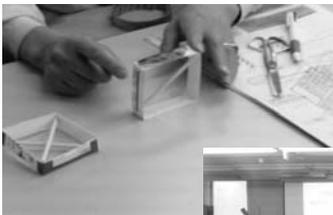
- ・1の熱量を得る時に投入されるエネルギー量は、電気:灯油:ガス=1.66:1.25:1.25 で、灯油・ガスに軍配が上がる。(C.F.この場合、電気の数値は火力・原子力・その他全電源平均の数値。火力発電平均では 2.77 でさらにエネルギーが必要となる)
- ・電気をそのまま暖房(熱)に使うのは、たとえ深夜電力であっても環境に良くないといえる。(例:電気ストーブ、こたつ、電気式床暖・給湯器・コンロ、電気蓄熱暖房など)
- ・しかしエアコンなどヒートポンプで電気をを使う事により効率が良くなり、使用エネルギー量は電気<灯油・ガスと逆転する。(ヒートポンプは、1のエネルギーを使って1以上の熱を得られるもの)
- ・その効率(COPやAPFといった数値で表される)は商品によってまちまち。現在 COP6(冷房時6、暖房時2~3)とい

ったエアコンが効率の高いものとして出回っているが、超高効率商品の開発に取り組む方向にある。

- ・COPが2.6を超えると、ガス・灯油に比べて一次エネルギー投入量を減らすことができ省エネといえる。
- ・環境の事だけを考えると、エネルギー効率のよいヒートポンプエアコンを使うことになるが、足元が寒い、風が当たって不快である事など、快適性と天秤にかけて何を選ぶかが必要になる。
- ・一例として、輻射熱の床暖房や電気蓄熱式の暖房器具とエアコンを組み合わせる、そもそも建物の断熱性気密性を高めておくなどといった配慮が必要である。
- ・できれば電気はソーラー発電によるものの方が理想的である。また太陽熱を利用した給湯システムは、エネルギーをダイレクトに利用できるのが省エネに有効である。
- ・古いエアコンを省エネ型のエアコンに交換する目安は、2000年。それ以前製造の機種は製品の廃棄などを考慮しても交換した方が省エネである。
  - ・ヒートポンプの優位性は「省エネになる」と表現されている場合が多い。しかしこの正しい表現は「ヒートポンプは化石燃料の投入量が少なくて済む」になる。
  - ・CO<sub>2</sub> 排出削減を実行するためにも化石燃料への依存度は減らしていかなければならない。だから効率の高いヒートポンプを使うことは正しい。しかし、いくら依存度が低くなくても、エネルギー需要が変化せず、原発がそれを賄うという図式でよいのだろうか？
  - ・火力発電も原発もなにかも含めた(もちろんバイオマスも)1次エネルギー投入量(使用量)を考えることが、本来的な省エネを考えることになる。
  - ・エネルギー消費量そのものを減らす、これを極限までやっておいて、自然エネルギーなどの技術を進化させていくのがもっとも妥当な姿勢だろう。

以上のようなお話があった。



<b>セミナー 企画運営</b>	
<b>平成 15 年度(2003)</b>	
<p>エコエコ ハウジング セミナー</p> <p>『100年住宅に 学ぶー木造建 築・長寿の秘 密』</p> <p>8月31日</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>古民家に残されている文化や技術を継承し、現代の住まいに役立てるための知恵を古民家の特徴と魅力、木の良さと木材の寿命、住宅の寿命と環境問題の関係等木造建築についてと実際に進行中の借家の解体事例と民家のリフォーム事例の2件について説明</p> <p>参加者:32名 講師:竹本香代・橋本育子</p>
<p>こうべ・すまい フェア 2003 関連 セミナー</p> <p>『すまいの中の ユニバーサル デザインー考 えてみようだ れも暮らし やすい住 まい』</p> <p>10月26日</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>メリケンハウジングアベニュー21 内にて、UD 商品やその考え方についての説明の後、モデルハウス内を『高齢者』『けが人』に装具を装着して見学を行い、実際に UD を身近に感じる体験型セミナーを実施。</p> <p>参加者:14名 セミナー主体:ユニバーサルデザイン研究会 講師:鈴木洋子・山本和代・鷲尾真弓</p>
<p>エコエコ ハウジング セミナー</p> <p>『地震に強い家 づくりー木造 のしくみを 知ろう』</p> <p>2月15日</p>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">      </div> <p>木造研究部会から、日頃の研究をもとに、「伝統広報から在来軸組み工法への変遷」「在来軸組とは?」「大切な構造計画」「リフォームするときの注意点」について、牛乳パックを使った力の伝わり方のワークショップや実例を交えての説明を行った。</p> <p>参加者:32名 セミナー主体:木造研究部会 講師:栗林郁子・垂水百合子・常俊桂子・長町奈百子</p>

平成 16 年度(2004)

エコエコ  
ハウジング  
セミナー

『都会のマンシ  
ョンで国産材を  
使う』

9月26日



シティフォレスト＝“都会の住まいに癒しの森づくり”を目的とし、森と消費者をつなぐ運動を行っている講師の、2,000 戸を超える実際に桧を使用したマンションの事例の紹介を受けながら、国産材のよさ、森と消費者の循環などについてお話を伺った。

参加者:26名

講師:山の加工場ネットワーク 代表 横濱金平

講演会:『まちの  
資産・原風景と  
しての建築を考  
える』

対談:『神戸のま  
ちと建築への思  
いを語る』

2月6日



「第9回神戸市建築文化賞」の表彰式にあわせて開催される講演会の企画及び当日の協力を行った。東京「谷根千」で地域雑誌の編集発刊をされている森まゆみ氏に講演を、その後神戸の景観・まちづくりに長年かかわってこられた武田則明氏との対談を企画

主催 神戸市

於:ファミリアホール

講師:作家 森まゆみ・神戸山手大教授 武田則明

講演会参加者総数:250名

当日協力スタッフ:6名

平成 17 年度(2005)

すまいるネット  
セミナー

『ユニバーサル  
デザインで  
変わるすまいと  
暮らし』

11月20日



前半は UD 研高松氏により、UD が注目される背景や概念に触れ、支援技術やバリアフリーとの違いについて、UDの7原則を用い具体的な事例を見せながら説明いただいた。後半はそれを踏まえたワークショップ。松原氏の全体進行のもと、各自の UD 理解度などを確認した後、各テーブルで日頃気になっていることなどについて意見を出し合って模造紙にまとめ、発表をした。

参加者:34名

セミナー主体:ユニバーサルデザイン研究会

講師:高松範明

ワークショップ運営:神戸まちづくりW研究会/松原永季(MF)・浅見雅之・石川正・西修・初田直哉

すまいるネット  
セミナー

『どうする？  
子ども部屋』



家族と住まい方研究会が中心となって企画した、子ども部屋をキーワードに家族と住まいのあり方を考えるワークショップ形式のセミナー。各テーブルで「子ども部屋は何のため？」「家の中で好きな場所は？」の2テーマについて、それぞれの考えや経験などを元に意見をまとめ、発表を行った。次に研究会が行ったアンケートでテーマに関するものを紹介、報告をした。最後に具体例として、澤木さんから子どもの勉強機の置き方実践例を紹介いただいた。

参加者:20名

セミナー主体:家族と住まい方研究会

講師:澤木久美子・浜谷富美子・松岡利香・山本和代・和田圭子

2月12日

平成18年度(2006)

すまいるネット  
セミナー

『みんなで考えよう！  
ユニバーサルなすまい』



このセミナーでは、「住み慣れた自宅に住み続けるためにはどんなことに気をつけたらよいか、どのような工夫をしたらよいか」等についてグループで意見を出し合い、誰もが住みよい『住まい』とはどのようなものかをともに考えることを目的とした、ワークショップ形式を取った。事例紹介では高松氏により5物件の「ユニバーサルなすまい」という観点で行われた、改修前・後のスライドを紹介した。

参加者:14名

セミナー主体:ユニバーサルデザイン研究会

講師:高松範明

ワークショップ運営:常俊桂子・日高俊二・八木景子・鷲尾真弓

11月19日

すまいるネット  
セミナー

『民家再生・長く  
住み継ぐ家  
～神家昭雄の  
世界』



兵庫県内にも多くの民家や町家の再生実例を持っている神家昭雄氏に、複雑で多様化した現代社会の中で気持ちよく住み継いでいく住宅とは、どのようなものなのか これまでのご経験やすまいについて日頃考えておられることや設計するときに考えていることなどをたくさんのスライドを交えながらお話をうかがった。

また、古民家再生工房の設立当初の苦労話やニーズが徐々に増えていった時代背景などについてもお話いただいた。

3月3日

参加者:33名

講師:神家昭雄建築研究室 神家昭雄

平成 19 年度(2007)

すまいるネット  
セミナー

『あかりと光で変  
わる住まい  
～豊かな暮らし  
をめざして』



講師の、作品を通して「あかりと光」をどのように取り入れ、工夫をしているか紹介していただいた後、グループ毎に 生活の中で「あかりと光」をどのように生活に取り入れているか、やってみたいこと、疑問など発表と意見交換を、リラックスしたなかで行った。

11月17日

参加者:17名

講師:尾瀬くみ・矢代恵

平成 20 年度(2008)

すまいるネット  
セミナー

『豊かな暮らし  
をめざして  
～ペットと共生  
を考える』



ペットと共に過ごす、暮らし方も年々増えてきている最近、佐古氏にペットと共に暮らす上での健康を考えた住まいの工夫や集合住宅等での暮らし方を、清原氏に日本と違ったスウェーデンのペット事情の紹介や街のあり方、ペットを飼う上での国のシステムなど日本と違った意識や視点などを通して、「共に豊かに暮らす」ヒントを紹介していただいた。

11月29日

参加者:17名

講師:建築家 佐古誠司・「ストックホルムに吹く風」著者 清原令子

## パネル展示

### 平成 15 年度(2003)

5月31日	『循環する木のすまい』パネル展示 10枚	於:兵庫県建築士会総会
6月21日~7月8日	『循環する木のすまい』パネル展示 10枚	於:丹波年輪の里
7月11日~7月12日	『循環する木のすまい』パネル展示 10枚	於:全国女性建築士連絡協議会
7月14日~7月25日	『循環する木のすまい』パネル展示 10枚	於:伊丹市役所庁舎1階ロビー
9月4日~10月14日	『循環する木のすまい』パネル展示 10枚	於:すまいるネット
10月24日	『循環する木のすまい』パネル展示 10枚	於:第47回全国大会 in 宮崎
11月22日~11月25日	『循環する木のすまい』パネル展示 10枚	於:イーグレひめじ展示ギャラリー
11月29日~11月30日	『循環する木のすまい』パネル展示 10枚	於:あいめっせフェスティバル

全国大会(宮崎)  
パネル展示



「イーグレ姫路」  
パネル展示



### 平成 16 年度(2004)

5月23日	『循環する木のすまい』パネル展示 10枚	於:ひょうご森の祭典 2004in 高砂
-------	----------------------	----------------------



スタッフ 7名参加

### 平成 17 年度(2005)

5月3日	『循環する木のすまい』パネル展示 10枚	於:ひめじ
6月9日~6月10日	『住教育実践』パネル 6枚・授業ツール展示	於:第48回全国大会 in 愛知屋台村
8月17日~8月19日	『UD』パネル展示 8枚	於:第3回ユニバーサルデザイン大会 in 神戸
12月4日	森づくりフォーラムにて 『循環する木のすまい』パネル展示	於:神戸国際会議場

全国大会(愛知)  
屋台村 パネル展示



スタッフ 4名参加

平成 18 年度(2006)		
4月22日	第7回「住まい・まち学習」実践報告 発表会パネル6枚展示 於:建築会館	
6月4日	『UD』パネル展示 8枚 於:ひょうご森の祭典 2006 in 丹波	
10月20日~10月21日	『UD』パネル展示 8枚 於:第49回全国大会 in 栃木 屋台村	
ひょうご森の祭典(丹波) パネル展示	 <p>スタッフ 5名参加</p>	<p>第7回「住まい・まち学習」実践報告 発表会参加</p> 
平成 19 年度(2007)		
6月27日~7月3日	『循環する木のすまい』パネル展示 於:阪急伊丹駅 4階アートギャラリー	
9月1日~9月2日	NHK 防災パーク 2007 にて 『住教育実践』パネル展示於:NHK 放送センター 防災委員会・住教育支援チーム参画	
1月25日~2月8日	『UD』パネル及び『循環する木のすまい』パネル展示 於:伊丹市	
2月23日	『UD』パネル展示 於:中播磨県民局 UD 社会づくりフォーラム	
阪急伊丹駅 ギャラリー パネル展示		<p>社会づくりフォーラム(姫路) 中播磨県民局UD パネル展示</p> 
平成 20 年度(2008)		
12月10日~12月16日	『UD』パネル展示 8枚 四会合同事業『市民と建築士・建築家が創るまち』建築作品展 於:こうべまちづくり会館	
		

## その他の活動

## 平成 15 年度(2003)

7月10日

神戸市立岩岡小学校 家庭科授業「快適な暮らし方」

『夏の気持ちよい暮らし方を換気・通風から考えよう』 5年生 80名対象

講師:鈴木洋子・常俊桂子・浜谷富美子・八木景子 参加スタッフ5名



『夏の気持ちよい暮らし方を換気・通風から考えよう』と小学5年生を対象に行った。

しい場所や風通しの良いところ探しを広いグラウンド内で探した後、換気通風の役割を、保健所の方と共同して数値での確認と体感を通して実感できる授業を行った。

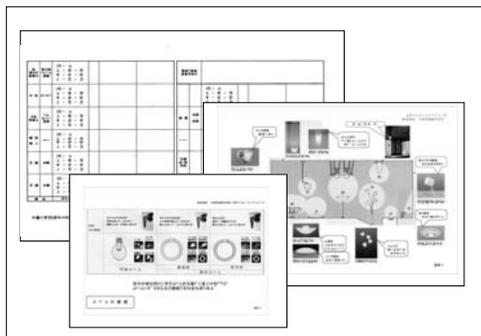
## 平成 16 年度(2004)

11月16日

神戸市立楠中学校 家庭科授業

『快適なすまいについて考えようー照明』 1年生3クラス 約120名

講師:服部香代 参加スタッフ4名



『快適なすまいについて考えよう』というテーマで、明について、明るさだけでなく上手な選び方や安全・快適に暮らすすまいにするためにはどのように証明を考えたらよいのかということ、基礎知識と実験 BOX による授業を実施した。

講義を服部さん、実験をスタッフにより1年生対象3クラスに行った。

## 平成 17 年度(2005)

5月

住教育実践パネル作成 A1サイズ6枚

1月19日

『防災教育で伝えることまなぶこと』パネラー参加

2月10日

(財)住宅総合研究財団

第7回「住まい・まち学習」論文公募に『生きる力を育てる住教育プログラム』論文提出

共同執筆:すまいるネット

平成 18年度(2006)	
4月22日	第7回「住まい・まち学習」実践報告 発表会参加 (財)住宅総合研究財団 於:建築会館 参加3名
6月15日・22日	神戸市立高羽小学校 UD 授業参画・参加 主体:UD 研究会 対象:5年生4クラス 参加延べ人数 8名
9月14日・19日	神戸市立高羽小学校 UD 授業参画・参加 主体:UD 研究会 対象:5年生4クラス 参加延べ人数 9名
9月19日	住教育モデル事業取り組み検討会協力参加 主催:すまいるネット 参加2名
10月5日・7日	神戸市立高羽小学校 UD 授業参画・参加 主体:UD 研究会 対象:5年生4クラス 参加延べ人数 10名
平成 20年度(2008)	
5月	UD 冊子 『建築空間におけるユニバーサルデザイン』印刷

## 6 女性委員会 役員名簿

年 度	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20
会 長	大海 一雄		垂水 英司		垂水 英司	
担当副会長	北村喜八郎		雨松 良行		雨松 良行	
委員長	鈴木 洋子		鈴木 洋子		常俊 桂子	
副委員長	木本 和子 垂水百合子		平内 節子 常俊 桂子 八木 景子		鈴木 洋子	
女性部会委員	後藤 美香 橋本 育子 平内 節子		平内 節子 山際 洋子		森澤理恵子 平内 節子 山本 和代	
研究部会委員	尾瀬 くみ 常俊 桂子 長町奈百子 山本 和代		常俊 桂子 尾瀬 くみ 長町奈百子 浜谷富美子 山本 和代 和田 圭子		尾瀬 くみ 杉本 雅子 和田 圭子	
普及啓発部会委員	吉川久似子 竹本 香代 八木 景子 鷺尾 真弓		八木 景子 服部 香代 鷺尾 真弓		八木 景子 矢代 恵 鷺尾 真弓	
相談役	野崎 瑠美		-		-	
事務局	山口 朋子		山口 朋子		山口 朋子	
女性会員数	188	163	148	141	134	131
兵庫県建築士会 全会員数	2,917	2,690	2,539	2,460	2,373	2,297
女性会員の割合 (%)	6.4	6.1	5.8	5.7	5.6	5.7

## 編集後記

女性委員会は、組織改革を踏まえ、対象も活動の種類もずいぶんと広がりを見せました。でも、それぞれの部会や研究会が、思い思いにバラバラの方向を向いているわけではなく、互いに関係しあっているからこそステップアップできた・・・ということはこの記録誌で確認していただければ 幸いです。( .S)

女性委員会の役員になって6年。おおよその活動は していたとと思っていましたが、今回の編集に携わり、各部会、研究会の詳しく活動を確認し、女性委員会の活動の広さと深さを改めて知ることとなりました。また、編集作業では、各担当の方に色々助けられ、とても楽しくできることができました。この記録誌で様々な方に会の活動を知ってもらい、今後も多様化する社会の中で、活かしさらに新たな発見をするきっかけになることを願います。( . )

### 「女性委員会活動の記録」編集担当

岩井一枝	尾瀬くみ	鈴木洋子	杉本雅子	常俊桂子
長町奈百子	野崎瑠美	平内節子	正木恵子	森澤理恵子
八木景子	矢代恵	山本和代	和田圭子	

### 表紙イラスト

小室千澄（素材提供）

## 社団法人 兵庫県建築士会 女性委員会 活動の記録 <平成 15～20 年度>

- 発行日 平成 21 年 3 月
- 編集・発行 社団法人 兵庫県建築士会 女性委員会  
〒650-0011  
神戸市中央区下山手通 4-6-11 エクセル山手 2F  
Tel.078-327-0885  
<http://homepage2.nifty.com/hyoukenjo/>

